

官報

號外 昭和六年三月四日

○第五十九回 帝國議會衆議院議事速記錄第一二一號

昭和六年三月三日(火曜日)
午後一時二十八分開議

第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十四 大正十三年法律第二號中改正法律案(海軍軍備制限條約實施ノ件)

(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第十五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一地租法(政府提出) 第一讀會ノ續(前會ノ續)

第一營業收益稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(前會ノ續)

第三 砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(前會ノ續)

第四 織物消費稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(前會ノ續)

第五 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(地方稅制限ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會ノ續(前會ノ續)

第六 大正十五年法律第二十四號中改正法律案(地方稅ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會ノ續(前會ノ續)

第七 都市計畫法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(前會ノ續)

第八 電氣事業法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十 土地收用法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十二 著作權法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

○議長(藤澤幾之輔君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

牧野法案 提出者

菅村 太事君 氏家 清君

亮君 提出者

山内 原夫次郎君

高橋壽太郎君

〔以上三月一日提出〕

出版權法案 提出者

山朴 儀重君

原夫次郎君

〔以上三月一日提出〕

提出者

加藤 知正君

星島 二郎君

〔以上三月一日提出〕

提出者

增田 義一君

〔以上三月一日提出〕

提出者

柳井 荒熊君

風見 章君

手代木隆吉君

栗原彥三郎君

〔以上三月一日提出〕

提出者

一松 定吉君

多田 滿長君

〔以上三月一日提出〕

提出者

鶴井 五島平戶近海不正漁業者取締ニ關スル建議案 提出者

〔以上三月一日提出〕

提出者

第五十九回 帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

市谷刑務所移轉速進ニ關スル建議案 提出者 櫻内 辰郎君 本田 義成君

立川 太郎君 三木 武吉君

濱川長野原間鐵道速成ニ關スル建議案 提出者

木下成太郎君 東 武君

松實喜代太君 佐々木平次郎君

板谷 順助君 三井 德寶君

東條 貞君 岡本實太郎君

坂東幸太郎君 川口 義久君

松本忠雄君

豐田 收君

輸出組合法中改正法律案(政府提出)外一件 委員長 田中 勉君

岡本實太郎君 坂東幸太郎君

中谷 貞賴君

古屋 慶隆君

理事 岩本實太郎君

坂東幸太郎君

第五十九回 帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

一昨二日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第六部選出 決算委員

自動車交通事業法案(政府提出)委員

委員長 古屋 慶隆君

理事 岩本實太郎君

坂東幸太郎君

第五十九回 帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

一昨二日議長及理事五選ノ結果左ノ如シ

自動車交通事業法案(政府提出)委員

委員長 古屋 慶隆君

理事 岩本實太郎君

坂東幸太郎君

第五十九回 帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

一昨二日議長及理事五選ノ結果左ノ如シ

自動車交通事業法案(政府提出)委員

委員長 古屋 慶隆君

理事 岩本實太郎君

坂東幸太郎君

第五十九回 帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

一昨二日議長及理事五選ノ結果左ノ如シ

自動車交通事業法案(政府提出)委員

委員長 古屋 慶隆君

理事 岩本實太郎君

坂東幸太郎君

第五十九回 帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

一昨二日議長及理事五選ノ結果左ノ如シ

自動車交通事業法案(政府提出)委員

委員長 古屋 慶隆君

理事 岩本實太郎君

坂東幸太郎君

第五十九回 帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

一昨二日議長及理事五選ノ結果左ノ如シ

自動車交通事業法案(政府提出)委員

委員長 古屋 慶隆君

理事 岩本實太郎君

坂東幸太郎君

第五十九回 帝國議會司法省所管事務政府委員被仰付

一昨二日議長及理事五選ノ結果左ノ如シ

自動車交通事業法案(政府提出)委員

委員長 古屋 慶隆君

理事 岩本實太郎君

坂東幸太郎君

明治二十五年三月三十一日
遞信省電氣局長 富安謙次
逕便物總司

モ吾々ノ疑義ハ明カニサレナインデアリマスルカラ、此論議ニ付テハ多少ノ時間ヲ要スルコトハ、豫メ大目ニ見テ戴カナケベナラヌノデアリマス（拍手）事數字ニ亘テ居リマスルカラ、ドウカ若シ私ノ此處デ申上ダルコトニ疑義ガアツタリ、御批評ノ餘地ガアツタリスルナラバ、後ニ與黨ノ諸君が又登壇サレルノデアリマスルカラ、其人ニ覺書ヲ渡シテ、演壇ノ上デ十分論議サレルヤウニナサレテ戴キタイ、サウデナイト私ハ思想ガ混亂致シマシテ、ツイ長引ク虞ガアルコトヲ、豫メ御斷リヲ致シテ置ク次第デアリマス（拍手）特ニ減税ノ諸法案ト云フモノハ、世間方待チニ待ッテ居ツタノデアリマス、モウ舜レヲ切ラシテ居ツタノデアリマス、世間デハ緊縮政策ト云フモノニ付テハ、随分不便ヲ感ジテ居ル、又不利益ヲ蒙シテ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ昨今ノ經濟界ノ大不況ト云フモノハ、全部トハ申シマセヌガ、其中ノ大ナル部分ト云フモノハ、政府ノ緊縮政策ノ結果デアルト云フコトハ、何人モ今日ニ於テハ否ム者ガナイノデアリマス（拍手）而モ世間ガ忍ンデ、之ニ對シテ大ナル反抗心ヲ現サナイト云フコトハ、伺ニ在ツカト云フト、緊縮政策ノ結果ハ、國民ノ負擔ニ大ナル輕減ヲ致スグラウト、之ヲ待チ設ケテ居ツタノデアリマス、然ルニ一年經ッテモ、一年半經ッテモ、是等ノ事ガ現レナイノデアリマス、又是ニ於テ疑義ヲ生ジテ、民政黨ニ於テ組閣當時ニ發表サレタル、而モ畏多イ事デアリマスガ、陛下ノ御内覽ヲ得タト稱セラレル所ノ十大政綱、之ヲ玩味致シテ見ルト、負擔ノ輕減トカ減税ト云フヤウナル氣分ガ此處ニ現レテ居ナイ、何處カ讀ンデル中ニハ、サウ云フコトノ匂ウトシタノデアル、殊ニ之ヲ昨年ノ總選舉ガスルヤウダガ、明カデナイト云フコトヲ世ノ中デ言出シテ、是ガ大分輿論化致サ

掲ゲテ天下ニ呼掛ケルト、與黨諸君ハ之ニ對シテ慌テ出シクノデアル、其處デ新シク八大政綱ト云フモノヲ拵ヘテ、之ヲ選舉宣傳ノ旗印ト爲サレタト云フコトハ、ヤハリ其道ニ掛ケテノ「オーソリティー」捕ヒト、吾々ハ感心ヲ致シテ居タノデアリマス（拍手）併ナガラ其八大政綱ノ中ニ、國民ノ負擔ノ輕減ト云フモノガアルカラシテ、國民ハ之ニ對シテ大ナル期待ヲ以テ、此減稅案ニヲ迎ヘタノデアリマスガ、今日此減稅案ニ臨ンデ、吾々ガ審議ヲ重ネテ見マスト、當初ノ聲明ドコロデハナイノデアル、コンナ事ヲサレテモ、國民ハ果シテ減稅ノ效果ト云フモノヲ味ヒ得ルヤ否ヤト云フコトサヘ、疑問視サレルニ至^タノデアリマス、諸君ガ試ニ此數字ヲ御覽ニナレバ直ぐ分ルノデアル、此窮迫セル事情ニ於テ、此減稅額ハドノ程度ダト云フコトヲ御考ニナラナケレバ相成ルマイト、私共ハ第一ニ考ヘルノデアリマス、私共ハ此減稅額ガ洵ニ僅デアルト云フヤウナ事ヲ考ヘマシタガ爲ニ、吾々ノ計算誤リデハナイカトサヘ考ヘ、此數字ヲ明カニ正確ニ致ス爲ニ、先以テ政府當局ニ向^タテ、今回ノ減稅ノ昭和六年度ニ於ケルモノ、並ニ昭和七年度以降、所謂平年度ニ於ケルモノヲ、豫算ノ歲計總額ト對比致シマシテ、其比率ハドノ位ニナルカト云フコトヲ、吾々ハ計算シテ貰^タノデアリマスガ、ヤハリ吾々ノ計算ト何等異ル所ガナイノデアリマス、其數字ヲ見マスト、今年度ニ於ケル數字ト云フモノハ、僅ニ今年度ノ豫算ニ對シテモ一分何厘、即チ此内閣ガ初メテ就任サレタル昭和四年度ノ當初豫算、實行豫算ノ前ノ當初豫算ノ數字ト比較致シテ見ルト、今年ナドハ僅ニ——是ハ一寸餘リ數字ガ大キクナリマシテ、緣ガ遠イヤウデアリマスカラ控ヘマスガ、政府ニ註文致シタルモノハ昨年、五年度ノ當初豫算第ニアリマス、昨年度ノ當初豫算ノ稅ノ收入ニ比較致シマシタ時ニ、其現レタル數字ト云フ

モノハ、僅ニ一分一厘餘デアル、一分一分一厘ト云フノハ何デアルカ、百分ノ一ヂヤアリマセヌカ、漸ク平年度ニ於テ二分何厘ト云フ、三分ニ稍近イヤウナ傾ニナル、百分ノ三ヤ百分ノ一ノ負擔ノ輕減ヲサレテ、此不景氣ニ直面致シテ今ヤ產ヲ失ハントシツツアル者ガアリ、自分ノ生業ヲ奪ハレントスル、根柢カラ破壊サレント致シテ居る人ノ窮迫状態ヲ救濟スルト云フコトニハ、餘リ小サナ數字デハナカラウカト、吾々ハ改メテ驚愕ヲ致シタノデアリマス（拍手）斯様ナルコトカラ、次第ニ吾々ハ進ンデ色々ノ検討ヲ致シタノデアリマス

先づ第一ニ吾々ガ考へマシタノハ、大藏大臣其他ノ所管大臣ノ御意見ヲ代ル（承リマシタガ、是等ノ數字ヲ以テシテハ足ラズ、果シテ目下窮迫ヲ致シタル所ノ階級ノ人々ヲ如何ニシテ救濟シ得ルカ、斯ノ如キ少額ナル數字ヲ以テシテハ、如何トモ仕難イデハナカラウカ、私共ハ先づ農林大臣ノ出席ヲ求メ、農林大臣ニ對シテ目下窮迫ノ状態ニ在ル所ノ農村ノ事情ヲ懇ヘテ、之ニ對シテ減税ハドレダケノ效果ガアルカト言ヒマスト、是ハ平年度ニ於テ一千万圓内外地租ノ減税ヲ致スノデアル、地租ハ是が爲ニ一千八百餘万圓減税セラレルノデアル、田畠地租が減税セラレルノデアルカラ、農民ハ是デ救濟サレルノデアル、斯様ナル御言葉デアツノデアリマス、其以外ニハ低利資金ノ若干ヲ農村ニ融通スルノデアルカラ、是等ト相俟テ農村ハ安キヲ得ルノデアルト云フヤウナ御答辯ガアツテ、私共ハ之ニ付テ憤慨ヲ致シタノデアリマス、又商工ノ薄弱ナルモノガアル、殊ニ負債ヲ肩負ウテ居ル者ハ非常ナル難儀ヲ致シテ居ル、ノハ中小商工業者ノ状態デアル、又大ナル工業家、大ナル商人ニ致シマシテモ、其甚シモ資力ニ於テ狀クル所ガナイトハ言ハ

常ナル窮迫ノ狀態ニ在リ、世間デハ之ヲ弱體會社、弱イ身體ノ會社ナリト致シテ、ソレゾレ救濟ノ途ヲ講ゼンケレバ相成ラヌト、聲高ク叫んデ居ル今日デアルカラシテ、之ニ向ッテ商工大臣ハ如何ナル方法ヲ執ラルカト申上ゲマシタ所ガ、之ニ對シテハ何等ノ具體的ノ政策ハナクシテ、唯二三法律ノ改廢或ハ制定ニ依ッテ、サウシテ之ヲ救フ、殊ニ組合法ノ改廢ヲ行ッテ、組合ヲラシメル、又一面デハ產業ノ統制法ニ依ッテ統制ノ實ヲ學ゲテ、是等ニ處スルト言フ、私ハ負債ノ整理ニ對スル成案ヲ同々タ所ガ、何等具體的ノ成案ガナカッタノデアル、而シテ一面ニ於テハ、大藏省ニ其他所管ノ大臣諸公ニ向ッテ、私ハ凡ソ整理スペキ負債ハドノ程度ニ達シテ居ルダラウ、又殊ニ窮迫セル中小商工農業者ガ有スル所ノ負債額ハ如何ト云フヤウナコトヲ承リ、尙ホ一面ニ於テハ、政府ガ若シ之ヲ救濟スルダケノ方策ヲ御持合セテ居ルトスルナラバ、何時マデノ期間ニ於テ、ドレダケノ金額ガ運用セラルベキデアルカ、其基礎數字ノ大綱ダケデモ示シテ戴キタイ、普通銀行、特別銀行ハ無論ノコトデアルガ、普通銀行は於テモ中小商工農業者ニ向ッテノ金融ヲ圓満ニスペク努力サレテ居ルト云フ御話デアル、殊ニ市街地ノ産業組合ノ基礎ヲ鞏固ニ致シ、之ヲ通じテ中小商工業者ヲ救ハントシテ居ルト云フ御話ガアリマシタカラ、之ニ向ケベキ所ノ銀行資金或ハ預金部資金ト云フモノハ、ドレ程ノ餘力ガアルカト云フコトヲ承リタノデアリマス、左様デアリマスカラ、一面カラ言ヘバ是等ノ御言明ハ唯口バカリディアル、委員會ニ於テハ、紙ノ上ト云フコトガ一ツノ當套語トナリマシテ、此減稅案ハ紙

問題ニナリマシタノデ、私ハ紙ノ上デモ宜シイカラ、是等ノ數字ヲ承リタイト言タクノデアリマスガ、遂ニ紙ノ上ニモ何等現スコトガ出来ナイ、即チは紙ヨリ以下ノ唯口先バカリノ方策デアツタ云フコトガ、之ニ依テ分々タコトヲ頗ル遺憾ト致スノデアリマス(拍手)

左様ナ譯テ、此案ヲ吾々ハ審議スルニ當テ、色々ナル豫備知識ヲ得ル爲ニ、此法案ニテ居リマスル各條ニ就テノ疑義ヲ質シタノデアリマスケレドモ、例等満足スペキ材料ヲ得ラレズ、又ソレニ對スル答辯ヲ得ラレナカツバカリデハアリマセヌ、實ハ此改正法ノ不徹底ニシテ、寧ロ改惡サレタノデハナイカトサヘ、吾々ハ考ヘナケレバナル期待ヲ持テル國民ノ意外トスル所ニアリ、如何ニ國民ヲ落膽セシムモノデアルカラ、吾々ハ覺悟シナケレバナラヌコトヲ、此場合改メテ闡明致シテ置キマス殊ニ地租法ニ於キマシテハ、其複雜ナルコトハ一通リデハアリマセヌ、地租法ソビ自身ニ於テ複雜困難ヲ極ムルバカリデナク、之ヲ地方稅ニ移スニ於テハ、一面ニ附加稅一面ニハ特別地稅ト云フモノガアリ、府縣並ニ市町村ト云フ關係ヲ考慮スル時ニ於テアリマス、ソレニ對シテ吾々ハ幾度力質問ヲ繰返シタノデアリマスケレドモ、内務大臣ハ遂ニ之ニ對シテ一言ノ答辯モナサラナイノデアリマス、細カイ所ハ忙シカラレト云フヤウナコトヲ言ハレマシタ、併ナ私ハ知ラナイト云フノデ、政府委員ヲ帶同シテ來ラレ、政府委員ノ答辯ニ對シテハ私ハ全責任ヲ負フカラ、政府委員ニ聞イテ是ガラ自分ノ所管ニ屬スル、而モ大事ナル拠方稅ニ對スル所ノ諸案ニ對シテ、説明モ出

來ナイナド、言ッテ見タガ、餘程御困リニシテ、忙シイカラツヒ細カイコトヲ調ベルシテ起チ、此重大ナル法案ヲ議會ニ提出スルニ當テ忙シイカラ能ク眼ヲ通シテ置カニカッタ、提案ノ理由ヲ心得テ居ラヌナド、云フ、不眞面目ノ態度ヲ以テ議會ニ臨ミ得ルヤ否ヤ、輔弼ノ責任ヲ盡シ得ルヤ否ヤト云フコトヲ聞イタ場合ニ、遂ニ其言ハ取消サレタノデアリマス、是へ大切ナ事デアリマス、内務大臣ハ此大切ナル提案ニ對シテサヘ、委員會ニ於テ議員ノ質問ニ對シテ説明ノ出來ナイト云フ程、複雜シテ居ルト云フヤウナル本案デアリマスカラ、其内容力如何ナルモノデアルカハ、此事ダケデモ諸君ハ御理解ニ相成ルコトダラウト吾々ハ考ヘルノデアリマス(拍手)又農林大臣ニ於テ農林關係ノ事項、殊ニ下問題トナッテ居リマス開墾地ノ關係ヲ聞キマスト、ソレニ對シテハ開墾ノ事ハ私ハ分ラナイト云フヤウナコトヲ言^シテ見タリ、或ハ耕地整理ト云フモノニ付テハ、耕地整理法ノ改正案ト云フモノハ別ニアルニ拘ラズ、之ニ對シテハ混同ヲシテ答辯ヲ致シタリスルノデ、是亦失言間題ヲ起シマシテ、取消ヲサレタリ、出テ來ル大臣デ満足ニ讐答シタ者ハ一人モナイノデアリマス(拍手)又段々論シマスガ、此處ニ居ラレル海軍大臣ハ、洵ニ正直デアリマスケレドモ、色々與黨諸君ナ他ノ閣僚カラ差口ガア^クタ見エテ、出スト言^シタ書類ガ出テ來ナカッタリ、或ハ一旦言切^シタモノヲ、後ニ少シ之ニ露ヲ掛けテ、少シ怪シイヤウナコトニ言換ヘテ見タリ、其他ニ舉ルコトグラウト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)而モ本會議ノ速記録ハ官報ノ附錄トナッテ國民ノ前ニ提出サレルノデア

リマスガ、委員會ノ連詰録及傍聴ハ國民一般ニ開放サレテ居ナイノデアルカラ、此醜狀ノ大半ト云フモノハ暴露サレズニ濟ムノデアリマスガ、新聞記者諸君ノ眼ニ映シタル其一部分ノ記事ハ、新聞紙ヲ過ジテ國民ガ之ヲ承知シ、其斷片的記事ノ末ヲ見テ吾等ノ次第デアリマシテ、吾々ノ疑義ガドノ程度ノ寄越シ、激動ノ手紙カ毎日山積シテ居ル、此事實ヲ見テモ、國民反對ハ明カデアルト吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマス(指手)斯様ヒマスガ、立憲政治家ハ左様ナコトハナサルマイト確信致シテ、私ハ安心シテ數字上ニ亘ルコトナモ二三申述ベタイト思セマスカラ、僅ノ間御清聽アランコトヲ豫メ希望ヲ申述べ次第デアリマス

トヲ幾ラ言ハレテモ、新聞ヤ雑誌ヲ見テ、貿易戻ガドウナタト云フヤウナコトガ見エマシテモ、吾々ガ浮ビ上ルコトノ出來ナイノハ、斯ウ云フ大キナ國家的ニ重壓ヲ此處ニ掛ケテ居ラレルト云フノハ、大ナル一ツノ癌ト致シテ、之ヲ取去テ貰ハナケレバナラヌノデアリマス（拍手）即チ吾々ハ今年度ノ豫算ニ致シマシテモ、殊ニ昨年度昭和五年度ノ當初豫算ヲ見マスト、約九億万圓ノ稅收入ヲ吾々ハ豫算ノ上ニ見出スノデアリマス、政府ニ、國稅トシテ十億、地方稅トシテ其外ニ七億ヲ取ラレテ居ルノデアル、是等ニ加ヘテ、或ハ煙草、鹽、樟腦等ノ所謂專賣益金、租稅ト同ジデアルト當委員會ニ於テ大藏大臣ノ言明サレタル所ノ是等ノ專賣益金、是等ノモノ、或ハ登錄稅其他ノ印紙稅法、或ハ其他ノ印紙ノ收入、所謂印紙收入ト云フモノヲ之ヲ加ヘマスト云フト、全部デ約二十億ニ垂ミト致シテ居ルノデアリマス、私共ハ郵便收入デアルトカ、或ハ特別會計ニ屬スル所ノ鐵道ノ運賃、或ハ其他ノ鐵道ノ收入ト云フヤウナモノモ考慮ニ入レル必要ガアリマスケレドモ、之ヲ姑ク措イテ見ルノデアリマス、ソレデ吾々ハ、二十億ト云フ負擔ヲ國家カラ強制サレテ居ルノデアリマスカラ、此二十億ト云フモノハ三割減、即チ三割ト云フモノハ幾ラデアルカト云フコトヲ見ナケレバナラヌ、二十億ノ三割ハ取りモ直サズ六億万圓デアル、六億万圓ト云フモノハ、物價下落ニ伴テ當然減ゼラルベキ國民ノ負擔デアル、是ダケ負擔ヲ減ゼナケレバ、國民ハソレダケノ重キ負擔ノ爲ニ壓迫サレルト云フコトニ相成ルノデアリマス、ソレデアルカラ、之ヲ一面五年度ニ於ケル所ノ收入ノ減少ノ一億二千万圓前後、或ハ今回提案サレタル減税ノ九百万圓、斯ウ云フヤウナモノヲ差引きマシテモ、先程申上げタル通り三億六七千万圓乃至四億万圓ト云フモノハ、吾々ノ負擔ハ輕減サレズニ、ソレダケ残テ居ルノ

デアリマス、吾々國民方緊縮政策其他ノ消極政策ニ依テ期待シ得タノハ、物價下落ニ伴フ所ノ租稅ニ依ル、或ヘ政府事業ニ依ル所ノ吾々ノ負擔ト云フモノハ、當然減ゼラルベキモノデアルト云フコトニアッタノデアリマス、ソレガ今日僅ナル所ノ減稅デ以テ、此間ノ事ヲ胡麻化スト云フヤウナ譯ニ當ルノデアリマスカラ、吾々ノ憤激スルバカリデナク、國民モ大ナル不満ノ意ヲ現シツ、アルト云フコトハ茲ニアルノデアリマス(拍手)

ニ於テ大見得ヲ切ラレタノデアリマスガ、何ト致シテ、地方稅ヲ之ニ加算致シマシタ所ガ、我國ノ地方稅ト云フモノハ、他ニ類例ヲ見ザル所ノ、家屋稅トカ、或ハ戸數割ト云フヤウナモノガ、非常ナル重キ負擔ニ相成シテ居ルコトヲ吾々ハ數ヘナケレバナラヌ、サウ云フモノマデ比べテ、漸ク直接稅ト消費稅ト云フモノハ、是ガ諸外國ト對比シ得ル程度位ニナルト云ウテ、何モ威張、タ話デハナイ、サウ云フコトヲ伺ッタ所ガ、一般ノ民衆ノ負擔ガ輕クナシタト云フヤウナ氣持ガ致サヌト云フコトヲ、私ハ此處デ闡明ヲ致スノデアリマス、今日私ハ、酒ノ稅金ヲ捉ヘテ見マシテモ、今日酒ト云フモノハ、前ニ大藏大臣デアラレタル濱口總理大臣ナドノ言ハレマスルニハ、酒ヤ煙草ト云フモノハ、飲マナクテモ人ハ死ニハシナイカラト言ハレタコトヲ、嘗テ耳ニ致シテ居ルノデアリマス、今日ハ左様ナコトハアリマセヌ、殊ニ地方農家ニ於キマシテモ、或ハ無產階級ト申シマスルカ、或ハ勞働階級ト云フヤウナ方面ニ於キマシテハ、酒ハ唯一ノ嗜好物デアリマス、之ヲ安價ニ得ラレルト、高價ニナルト云フコトハ、此間ニ非常ナル隔りガアルノデアリマス、目下ハ淘ニ酒ノ値段ニ比較致シマシテ、稅金ノ割合ハ高クナリマシタ、之ヲ假ニ酒ガサウ云フ暴落ヲ致シタト云フコトヲ眼中ニ置カズシテ之ヲ見マシテモ、市價ノ三割乃至五割ヲ下ラナインデアリマス、斯ウ云フ高イ稅金ヲ吾々ハ背負ウテ居ル、砂糖ニ對シテハ、今日ハ殊ニ五割乃至六割ニ近イ稅金ヲ、吾吾ハ負擔スル割合ニナルノデアリマス、砂糖ノ値段ハ、此頃砂糖業者ノ「カルデル」ニ依テ、幾分カ下落ヲ防イデ居リマスケレドモ、世界的砂糖ノ生産過剰ノ結果ト致シテ、等負擔ハ輕クナシテ居ラヌト云フコトハ明カデアリマス、吾々ハ約四割乃至五割六割

ニケレバナラヌト云フヤウナニト考ヘル時ニ於テ、吾々ハ此一般中產階級以下ノ負擔力ノ最モ乏シイ、富ノ程度ノ最モ低イ所向ニテ、而モ消費稅ト云フモノハ他ノ直接稅ト違テ、其所得ト云フモノ、一部分ヲ取去ルノデハナイノデアル、其人ハ所得ガ有ラウガ無カラウガ、茲ニ購買力ヲ生ジタ、消費力ヲ生ジタ云フ、其消費力、購買力ノ一部分ヲ取去ルト云フヤウナ、亂暴ナル使ハレルト云フコトハ、洵ニ私ノ情ノ忍ビザル所デアリマスルカラ、私ハヨンナ財政ノ稅金デアリマスルカラ、私ハヨンナ財政ノ辻棲ヲ合セルコトニマデ、斯ウ云フ稅金ガノ一部部分ヲ取去ルト云フヤウナ、亂暴ナル使ハレルト云フコトハ、洵ニ私ノ情ノ忍ビザル所デアリマスルカラ、特ニ此一項ヲ此場合附加ヘタノデアリマスル（拍手）斯様ナコトヲ吾々ハ考フル時ニ於テ、洵ニ此稅金ハ、一般的ニハ吾々ノ期待シ得ルヤウナ減稅ハサレナイト同時ニ、階級のニハ云フコトヲ、今日吾々ハ畔ザルヲ得ナイノデアリマス、ソレデ私共ハ國民一人當リドノ位ノ程度デアルカ、一分一厘何毛ト云フヤウナ數字ハ一體國民一人當リニ致スト云フト、ドノ位ノ程度ノ減稅ヲサレタノデアルカト云フコトヲ計算シテ見マスト、或ハ人ニ依テ之ヲ我國ノ國民ハ六千四百万ト計算ヲ致シ、明カニスル爲ニハ六千四百四十万ト云フヤウナ數字ヲ以テ基礎ト致シテ之ヲ計算スルカラ、多少ノ違ヒハアリマセウ、假ニ六千四百万ノ數字ヲ以テ之ヲ計算シテ見マスト、昭和六年度ニ於ケル所ノ減稅額九百十萬圓ト云フモノヲ、六千四百万ノ國民ニ割當テ、見マスト、一人前ノ一年ノ一年デアル、月ニ致シマスト一錢二厘ニナ敷島ヲ一つ買フダケノ金モ吾々ハ輕減サレニ於テ減稅サル、額ハ幾ラデアルカ、十四錢二厘、一年デアル、月ニ致シマスト一錢二厘ニナルノデアル、月ニ一錢二厘位ノ輕減ヲサレ

テ、私共ハ是ガ大ナル……(馬鹿ナ議論ヲ
スルナ)ト呼フ者アリ)何ガ馬鹿ダ、此通り
デハナイカ、是ハ政府ガ割出シテ數字カラ
吾々ハ割出シテ居ルノデアル、少シモ馬鹿
ナコトデハナイ、諸君ガ算盤ヲ採ツテ見給
ヘ、直ダ分ル——平年度ニ於キマシテモ、
ドノ位ニナルカト云フト、詰リ二千五百万
圓ト云ヒマスケレドモ、是ハ八年度カラ二
千五百万圓ニナルノデアリマスカラ、七年
度ハ二千三百万圓臺デアルノデアリマス、
ソレデ其處ニ七年度ニ於テハ、平年度ト云
テモ二百万圓ノ喰込ヒハアリマスケレド
モ、吾々ハ大體二千五百万圓ト目星ヲ著ケ
テ計算致シテ參リマスト、年額一人前四十
錢ト相成ルノデアリマス、又月ニ割ルト三
錢三厘位ニナルノデアリマス、コンナ端タ
金ヲ吾々ガ負ケテ貰^シテ、減稅ヲシテ貰^シタ
ト云^シテ、ドウシテ吾々ノ生活ガ安定ヲサレ
タリ、沈ミ行ク商工業ガ勢ヲ盛返シテ、サ
ウシテ産業ノ振興ガ圖リ得ラレルナドト云
フヤウナコトガ出來マスカ、何處ヲ捉ヘタ
ラゾンナ音ガ出ルカト私ハ謂ハナケレバナ
ラヌノデアリマス(拍手)
斯ウ云フコトヲ吾々ガ考ヘマスル時ニ於
テ、私ハ洵ニ此減稅ト云フモノハ、寧ロ不
眞面目デアルト叫バザルヲ得ナイノデアリ
マス、ソンナコトヲヤ^シテ、サウシテ百分ノ
一ト云フヤウナ、コンナ僅ナル減稅ヲ致シ
テ國民ノ負擔ヲ輕減スルノダナドト、一年
度ノ年度割ヲ云フト、國民ガビックリスルカ
ラ、態ト六年度分ノ合計ヲ致シテ、一億三
千四百万圓ノ負擔輕減ヲヤルノダナドト云
テ、天下ヲ胡麻化スト云フヤウナコトハ、
實ニ大膽ト云フカ、横著ト云フカ、形容ノ
言葉ヲ私ハ知ラナイノデアリマス(拍手)斯
様ナコトヲ致シテ、ソレナラベ減稅ニ代ヘ
ルニ、國民ノ負擔ヲ輕減スル何事ヲヤッタ
ノデアルカ、私共ハ商工業、產業ニ必要、
農業ニ最モ負擔ノ重課ヲ來ス所ノ是等ノモ
ノ、殊ニ産業ノ中心デアル所ノ石炭ノ、此

運賃ニ付テハドウナッテ居ルカト云ウテ、態
私ハ鐵道當局ヲ委員會ニ來テ貴^タ、是ヲ
説明シテ貴^タ、鐵道當局ヲ態、來テ貴フ必
要ハナイト思^タカラ、商工大臣ノ所管デアル
ルコトガ主デアルカラ、商工大臣ニ聽カウト
シタノデアルガ、商工大臣ハ分ラヌ、ソレ
デアルカラ、是ハ寧ロ當局者ヲ此處へ呼出
シテ聽イタ方ガ御便利デアル、正確デアル
カラ、明日マテ待^テ吳レト云フノデ、吾々
ハ忙シノデ、成ベク早ク質問ヲ打切りタ
イト思^タテ居^タノデアルガ、折角商工大臣
ノ懇望デアルカラ、其日ハ見合セテ、翌日
ヲ待^テ是等ノ質問應答ヲ致シタノデアル、
デアルノ=何等徹底的ナ所ノ、吾々ノ満足
シ得ルヤウナ答辯ハ少シモ出來ナカ^タ、ソ
レダカラ其時分ニ、石炭等ニ付テ私ハ質問
ヲ致シタノデアル、石炭ニ向^テ、政府ハ近
頃——四月カラ始マル昭和六年度ニ於テ、
居^タノデアリマスガ、船舶業者、殊ニ石炭
ノ產地デアル所ノ北海道ニ於ケル所ノ船舶
業者ガ買入レル年契約ハ、當業者トノ折衝
ノ時ニ、ドウ云フコトヲ致シタカト云フト、
約一割五分昨年ヨリモ値上^ゲサレルト云フ
コトデ、船舶業者ハ此不況ノ際ニ當^テ、其
石炭マデガ値上^ゲサレルニ至^テハ、立行ク
コトガ出來ヌト云フノデ、大恐慌ヲ來シタ
ト云フ事實ヲ私ハ耳ニ致シテ居^タノデア
リマスルカラ、此事實ハ政府殊ニ鐵道當局
ガ、三百万噸ニ近イ石炭ヲ買入レルノニ、
昨年ヨリ二割安^ク契約ヲスルコトガ出來ル
ト云フヤウナ事實ト對比致シテ、其開キハ
約三割五分ニ相成ルガ、是ハ何ノ爲デアル
カ、一ハ鐵道運賃ハ手前持^テアル、民間ノ
業者ハ、政府ニ石炭ノ運賃ノ支拂ヲ致サナ
ケレバナラヌト云フコトガ、即チ此結果ニマシ
タルト云フコトヲ私ハ力說致シマシテ、當
局ノ意見ヲ求メタノデアリマスルガ、何等

微徹底的ノ答辯ハナカタノデアリマスル、殊ニ對シテハソレゝノ運賃ノ割引ヲ致ス、之ニ對シテ私ハ法ノ不備ヲ指摘致シテ、例へバ貴重ナル品物ヲ順次ニスル、或ヘ貸切扱ニシテ、一車以内デハイカヌト云フヤウナ扱ニスル、横濱ノ埠頭ニ直送ヲシナケレバナラヌト云フヤウナコトヲ規定シテアルガ爲ニ、當然ノ效果ヘ現レ得ナイノデアル、是等ニ對シテ改正ノ事實アリヤ否ヤト云フコトヲ伺シタノデアリマスガ、御當局ニ於テ答辯ハ出來ナカタノデアリマス、斯ウ云フヤウナ重大ナ事件ヲ、委員會ニ於テ吾吾ハ質問ヲ致シタガ、假スニ時日ヲ以テシテモ、尙且ツ吾々ニ答辯ガ出來ナイ、吾々ハ時間ノ節約ヲ圖ル爲ニ、書面ヲ以テ數字的ノ基礎ヲ明カニセヨト迫テモ、是等ノモノハ出來ナイト云フヤウナコトデ、如何ニ吾吾ハ議事ヲ進メヤウト致シテモ進メ得ナカタ主ナル原因ハ、政府當局者ノ答辯ヲ爲シ得ナカタノ事實ガ、斯ノ如キ結果ヲ致シタ云フコトガ、其眞相デアルト云フコトヲ、此場合ニ吾々ハ言明シテ置カナケベナラナインデアリマス(拍手)

スカラ、ウルサイダラウガ、此減税額ト云
フモノハ、一人當リノ數字ニスルト幾ラニ
ナルノデアルカト云フコトヲ、ウルサイデ
アラウガチヨクト申上ゲマスカラ、暫時ノ
間御幸抱ヲ願ヒタイ（拍手）例ヘバ租地ハ平
年度、昭和七年度以降ニ於キマシテハ、約
一割五分ノ減税ニナルノデアリマス、之ヲ
レカラ營業収益稅ハ平年度ニ於テ、法人ト
個人ト違ヒマスガ、法人ニ於テハ五分五厘
ノ減税ニナツテ居リマスガ、純益百圓當リト
云フコトニシテ、是亦二十錢ノ減税ニナ
ルノデアリマス（結構デハナイカ二十錢
デ……ト呼フ者アリ）結構ダト言ヒマスケ
レドモ、併ナガラ之ニ地方稅ガ附加サレル
ノデアリマスカラ、地方稅ノ附加稅ト云フ
モノハ、ドッサリ課率ガ上テ來ルモノデア
ルカラ、餘り結構ダナント云フヤウナ聲ハ
出セナイノデアリマス、個人ニ付キマシテ
ハドウナルカト云フト、是ハ七分乃至二割
八分以内ノ減税ニナリマス、純益百圓當リ
ト云フモノガ二十錢乃至八十錢ノ減税ニ相
成シテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り千圓
以下ニ對スル稅率ト云フモノハ輕クナツテ
居リマス、ソレデ千圓以上ノモノト千圓以
下ノモノト對照致シマシテ、純益ニ付テ平
費稅ハ木暮君或ハ岡田君モ申サレマシタ
ガ、最モ酷イノデアリマスカラ、私ハ此處
デ又繰返スノデアリマスガ、砂糖消費稅ハ
平年度ニ於テ、平均八分ノ減税ニナツテ居
リマス、此砂糖一斤ニ付テハ約五厘ノ減税
ニナル、從量稅デアリマスカラ、量ニ付テ
之ヲ價格ニスルト云フト、一斤當リ二厘ト
カニ厘ト云フヤウナコトニナツテ居リマス
ケレドモ、量デ計算スルト、一斤當リ約五

段ニ於テ計算致シテ見マスト、一段歩當リ
ノ地租ト云フモノガ、一年間ニ二十錢ニナ
ルノデアリマス、是ハ平年度二十錢——ソ
レカラ營業収益稅ハ平年度ニ於テ、法人ト
個人ト違ヒマスガ、法人ニ於テハ五分五厘
ノ減税ニナツテ居リマスガ、純益百圓當リト
云フコトニシテ、是亦二十錢ノ減税ニナ
ルノデアリマス（結構デハナイカ二十錢
デ……ト呼フ者アリ）結構ダト言ヒマスケ
レドモ、併ナガラ之ニ地方稅ガ附加サレル
ノデアリマスカラ、地方稅ノ附加稅ト云フ
モノハ、ドッサリ課率ガ上テ來ルモノデア
ルカラ、餘り結構ダナント云フヤウナ聲ハ
出セナイノデアリマス、個人ニ付キマシテ
ハドウナルカト云フト、是ハ七分乃至二割
八分以内ノ減税ニナリマス、純益百圓當リ
ト云フモノガ二十錢乃至八十錢ノ減税ニ相
成シテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り千圓
以下ニ對スル稅率ト云フモノハ輕クナツテ
居リマス、ソレデ千圓以上ノモノト千圓以
下ノモノト對照致シマシテ、純益ニ付テ平
費稅ハ木暮君或ハ岡田君モ申サレマシタ
ガ、最モ酷イノデアリマスカラ、私ハ此處
デ又繰返スノデアリマスガ、砂糖消費稅ハ
平年度ニ於テ、平均八分ノ減税ニナツテ居
リマス、此砂糖一斤ニ付テハ約五厘ノ減税
ニナル、從量稅デアリマスカラ、量ニ付テ
之ヲ價格ニスルト云フト、一斤當リ二厘ト
カニ厘ト云フヤウナコトニナツテ居リマス
ケレドモ、量デ計算スルト、一斤當リ約五

厘ノ平均減税ニ相成ルノデアリマス、砂糖
フモノハ、一人當リノ數字ニスルト幾ラニ
ナルノデアルカト云フコトヲ、ウルサイデ
アラウガチヨクト申上ゲマスカラ、暫時ノ
間御幸抱ヲ願ヒタイ（拍手）例ヘバ租地ハ平
年度、昭和七年度以降ニ於キマシテハ、約
一割五分ノ減税ニナルノデアリマス、之ヲ
レカラ營業収益稅ハ平年度ニ於テ、法人ト
個人ト違ヒマスガ、法人ニ於テハ五分五厘
ノ減税ニナツテ居リマスガ、純益百圓當リト
云フコトニシテ、是亦二十錢ノ減税ニナ
ルノデアリマス（結構デハナイカ二十錢
デ……ト呼フ者アリ）結構ダト言ヒマスケ
レドモ、併ナガラ之ニ地方稅ガ附加サレル
ノデアリマスカラ、地方稅ノ附加稅ト云フ
モノハ、ドッサリ課率ガ上テ來ルモノデア
ルカラ、餘り結構ダナント云フヤウナ聲ハ
出セナイノデアリマス、個人ニ付キマシテ
ハドウナルカト云フト、是ハ七分乃至二割
八分以内ノ減税ニナリマス、純益百圓當リ
ト云フモノガ二十錢乃至八十錢ノ減税ニ相
成シテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り千圓
以下ニ對スル稅率ト云フモノハ輕クナツテ
居リマス、ソレデ千圓以上ノモノト千圓以
下ノモノト對照致シマシテ、純益ニ付テ平
費稅ハ木暮君或ハ岡田君モ申サレマシタ
ガ、最モ酷イノデアリマスカラ、私ハ此處
デ又繰返スノデアリマスガ、砂糖消費稅ハ
平年度ニ於テ、平均八分ノ減税ニナツテ居
リマス、此砂糖一斤ニ付テハ約五厘ノ減税
ニナル、從量稅デアリマスカラ、量ニ付テ
之ヲ價格ニスルト云フト、一斤當リ二厘ト
カニ厘ト云フヤウナコトニナツテ居リマス
ケレドモ、量デ計算スルト、一斤當リ約五

斯ウ云フコトヲ私ハ考ヘルト、サウ云フ
時分ニ於テ、私共ハ大ナル失望ヲ感ズルノ
デアリマス、之ヲ更ニ階級別ニ直セバ、下
ナルカト云フ數字ヲ擧ゲテ居リマスガ、是
ハ時間ガ長クナリマスカラ、外ノ論旨ヲ進
メル上ニ於テドウカト思ヒマスケレドモ、
是ハ大切ナ事デアリマスカラ、暫時ノ時間
ヲ拜借致シマシテ、成ベク早口ニ申上ゲマ
スカラ、御聽落シノナイヤウニ御願ヲ致シ
タイ、即チ地租ヲ、之ヲ階級別ニ分ケ、人
員或ハ現在負擔額、減稅額、一人當リ減稅
額ト云フヤウニ分ケ、更ニ之ヲ備考ヲ附シ
テ、大地主ト云フ者、中地主ト云フ者、小
地主、其他ニ自作農テ免稅サレルモノト云フ
ヤウナモノヲ、茲ニ表ニ取テ見マスルト云
フト、斯ウ云フコトニナリマス、豫メ断ッテ
置キマスガ、備考欄ニ吾々ガ記載シテ居リ
マス所ノ大地主、中地主ノ區別ト云フモノ
ハ、斯様ニナツテ居ルノデアリマス、大地主
リマスカラ、百圓ノ純益ニ付テ二十錢乃至
八十錢ノ減税ニナルノデアリマス、砂糖消
費稅ハ木暮君或ハ岡田君モ申サレマシタ
ガ、最モ酷イノデアリマスカラ、私ハ此處
デ又繰返スノデアリマスガ、砂糖消費稅ハ
平年度ニ於テ、平均八分ノ減税ニナツテ居
リマス、此砂糖一斤ニ付テハ約五厘ノ減税
ニナル、從量稅デアリマスカラ、量ニ付テ
之ヲ價格ニスルト云フト、一斤當リ二厘ト
カニ厘ト云フヤウナコトニナツテ居リマス
ケレドモ、量デ計算スルト、一斤當リ約五

厘ノ平均減税ニ相成ルノデアリマス、砂糖
フモノハ、一人當リノ數字ニスルト幾ラニ
ナルノデアルカト云フコトヲ、ウルサイデ
アラウガチヨクト申上ゲマスカラ、暫時ノ
間御幸抱ヲ願ヒタイ（拍手）例ヘバ租地ハ平
年度、昭和七年度以降ニ於キマシテハ、約
一割五分ノ減税ニナルノデアリマス、之ヲ
レカラ營業収益稅ハ平年度ニ於テ、法人ト
個人ト違ヒマスガ、法人ニ於テハ五分五厘
ノ減税ニナツテ居リマスガ、純益百圓當リト
云フコトニシテ、是亦二十錢ノ減税ニナ
ルノデアリマス（結構デハナイカ二十錢
デ……ト呼フ者アリ）結構ダト言ヒマスケ
レドモ、併ナガラ之ニ地方稅ガ附加サレル
ノデアリマスカラ、地方稅ノ附加稅ト云フ
モノハ、ドッサリ課率ガ上テ來ルモノデア
ルカラ、餘り結構ダナント云フヤウナ聲ハ
出セナイノデアリマス、個人ニ付キマシテ
ハドウナルカト云フト、是ハ七分乃至二割
八分以内ノ減税ニナリマス、純益百圓當リ
ト云フモノガ二十錢乃至八十錢ノ減税ニ相
成シテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り千圓
以下ニ對スル稅率ト云フモノハ輕クナツテ
居リマス、ソレデ千圓以上ノモノト千圓以
下ノモノト對照致シマシテ、純益ニ付テ平
費稅ハ木暮君或ハ岡田君モ申サレマシタ
ガ、最モ酷イノデアリマスカラ、私ハ此處
デ又繰返スノデアリマスガ、砂糖消費稅ハ
平年度ニ於テ、平均八分ノ減税ニナツテ居
リマス、此砂糖一斤ニ付テハ約五厘ノ減税
ニナル、從量稅デアリマスカラ、量ニ付テ
之ヲ價格ニスルト云フト、一斤當リ二厘ト
カニ厘ト云フヤウナコトニナツテ居リマス
ケレドモ、量デ計算スルト、一斤當リ約五

厘ノ平均減税ニ相成ルノデアリマス、砂糖
フモノハ、一人當リノ數字ニスルト幾ラニ
ナルノデアルカト云フコトヲ、ウルサイデ
アラウガチヨクト申上ゲマスカラ、暫時ノ
間御幸抱ヲ願ヒタイ（拍手）例ヘバ租地ハ平
年度、昭和七年度以降ニ於キマシテハ、約
一割五分ノ減税ニナルノデアリマス、之ヲ
レカラ營業収益稅ハ平年度ニ於テ、法人ト
個人ト違ヒマスガ、法人ニ於テハ五分五厘
ノ減税ニナツテ居リマスガ、純益百圓當リト
云フコトニシテ、是亦二十錢ノ減税ニナ
ルノデアリマス（結構デハナイカ二十錢
デ……ト呼フ者アリ）結構ダト言ヒマスケ
レドモ、併ナガラ之ニ地方稅ガ附加サレル
ノデアリマスカラ、地方稅ノ附加稅ト云フ
モノハ、ドッサリ課率ガ上テ來ルモノデア
ルカラ、餘り結構ダナント云フヤウナ聲ハ
出セナイノデアリマス、個人ニ付キマシテ
ハドウナルカト云フト、是ハ七分乃至二割
八分以内ノ減税ニナリマス、純益百圓當リ
ト云フモノガ二十錢乃至八十錢ノ減税ニ相
成シテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り千圓
以下ニ對スル稅率ト云フモノハ輕クナツテ
居リマス、ソレデ千圓以上ノモノト千圓以
下ノモノト對照致シマシテ、純益ニ付テ平
費稅ハ木暮君或ハ岡田君モ申サレマシタ
ガ、最モ酷イノデアリマスカラ、私ハ此處
デ又繰返スノデアリマスガ、砂糖消費稅ハ
平年度ニ於テ、平均八分ノ減税ニナツテ居
リマス、此砂糖一斤ニ付テハ約五厘ノ減税
ニナル、從量稅デアリマスカラ、量ニ付テ
之ヲ價格ニスルト云フト、一斤當リ二厘ト
カニ厘ト云フヤウナコトニナツテ居リマス
ケレドモ、量デ計算スルト、一斤當リ約五

厘ノ平均減税ニ相成ルノデアリマス、砂糖
フモノハ、一人當リノ數字ニスルト幾ラニ
ナルノデアルカト云フコトヲ、ウルサイデ
アラウガチヨクト申上ゲマスカラ、暫時ノ
間御幸抱ヲ願ヒタイ（拍手）例ヘバ租地ハ平
年度、昭和七年度以降ニ於キマシテハ、約
一割五分ノ減税ニナルノデアリマス、之ヲ
レカラ營業収益稅ハ平年度ニ於テ、法人ト
個人ト違ヒマスガ、法人ニ於テハ五分五厘
ノ減税ニナツテ居リマスガ、純益百圓當リト
云フコトニシテ、是亦二十錢ノ減税ニナ
ルノデアリマス（結構デハナイカ二十錢
デ……ト呼フ者アリ）結構ダト言ヒマスケ
レドモ、併ナガラ之ニ地方稅ガ附加サレル
ノデアリマスカラ、地方稅ノ附加稅ト云フ
モノハ、ドッサリ課率ガ上テ來ルモノデア
ルカラ、餘り結構ダナント云フヤウナ聲ハ
出セナイノデアリマス、個人ニ付キマシテ
ハドウナルカト云フト、是ハ七分乃至二割
八分以内ノ減税ニナリマス、純益百圓當リ
ト云フモノガ二十錢乃至八十錢ノ減税ニ相
成シテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り千圓
以下ニ對スル稅率ト云フモノハ輕クナツテ
居リマス、ソレデ千圓以上ノモノト千圓以
下ノモノト對照致シマシテ、純益ニ付テ平
費稅ハ木暮君或ハ岡田君モ申サレマシタ
ガ、最モ酷イノデアリマスカラ、私ハ此處
デ又繰返スノデアリマスガ、砂糖消費稅ハ
平年度ニ於テ、平均八分ノ減税ニナツテ居
リマス、此砂糖一斤ニ付テハ約五厘ノ減税
ニナル、從量稅デアリマスカラ、量ニ付テ
之ヲ價格ニスルト云フト、一斤當リ二厘ト
カニ厘ト云フヤウナコトニナツテ居リマス
ケレドモ、量デ計算スルト、一斤當リ約五

ノハ、同ジク三十圓以上二百圓未満ノ納稅ヲ致ス者アリマス、小營業者ハ同ジク三十圓未満ノ者ヲ捉ヘタノデアリマス、ソレガ府縣稅ノ附加稅ニ於テ激増ヲ致スト云フコトニナルノデアルカラシテ、尙ホ不公平ヲ増スト云フコトニナル
私ハ國稅ニ關スル限リニ於テ、是ダケノ事ヲ言^テ居ルノデアリマス、砂糖消費稅、織物消費稅ト云フノヘ、上中下ニ分ケテモ宜シウゴザイマスガ、是ハ皆同ジコトニアリマス、左様デアリマスルカラ、是ハ一人當リ十五錢九厘ト云フモノヲ均一ニ、大資產家モ、中資產家モ、下級ノ者モ、大營業者モ、中營業者モ、下級ノ者モ、一律一體ニ一人ニ付テ十五錢九厘ノ減稅ト相成ルノデアリマス、斯ウ云フ事ヲ考フル時ニ於テ、此各階級別ニ分チマシタル負擔ト云フモノハ、淘ニ其當ヲ得ザルモノナリト吾々ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデ私ハ此稅制ヲ致スノデアリマス(拍手)殊ニ地租法ニ於テハ少シモ……〔自分ノ内閣デハ增稅バカリシテ居^テ人ノ内閣ニケチヲ付ケルナ」ト云フ跡ハ少シモナイト云フコトヲ高調力説呼フ者アリ〕……何モ分ラズニソシナ彌次ヲ飛バスト云フト、私ハソレニ付テ辯明ヲスル必要方生ジマスト、私ノ言論ハ進行致シマセヌ、民政黨ノ幹部ガソレデモ差支ナイト云フナラバ、私ハソレニ對シテ多少ノ意見ヲ申述べマス——地租ノ改正ニ依リマス不公平ト云フモノヲ吾々ハ考ヘマス時ニ於テ、淘ニ負擔ノ公正ト云フモノハ、再ビレドモ、各地方別ナドニ付テハ、少シモ負擔ノ公正ナドハ顯ハレテ居リマセヌ、ソレテ從來現行地價ノ額ニ於テ非常ニ低カッタ言ハレル地方ニ於テハ、今回ノ改正ニ

於テ之ヲ引上トガタカラ、公正ニナクタト言ヒ
マスケレドモ、其引上ト云フノハ僅デア
ル、私ハ幾ラ公正ニヤラウト云ヒマシテモ、
サウ急激ナル増加ト云フモノハ中々困難デ
アル、殊ニ地方ノ人々ヲ相手ニ致シテ、賃
貸價格ト云フモノヲ調査致シタノデアリマ
スカラ、容易ニ何倍、何十倍ト云フヤウナ
ル所ノ引上ト云フモノハ、賃貸價格ニハ容
易ニヤレナカツト云フ事情ハアリマセウ
ガ、サウ云フ事情ハ私ハ察知スルノデアリ
マスケレドモ、此結果ト云フモノハ、少シ
モ公平ニ相成テ居ラヌノニアリマス、左様
デアルカラ、此點ニ付テ調査シタノデアル
カラ、此調査資料ハ確カデハナイカト言
テ、大藏大臣ヤ政府委員ノ方々ガ極論サレ
ルカラ、サウナラバ此賃貸價格ノ出テ來ル
基デアル土地ノ賣買價格ト云フモノニ付
テ、相當ノ調査ガアルグラウト言ツテ、是ノ
提出ヲ求メタ所ガ、中々御提出ニナラヌノ
デアリマス、其間ニ一部分ニ付テ政府委員
ハ出サナケレバナラヌト觀念ヲ致シテ、之
ヲ出サウト努メルト云フト、吾々ハ註文モ
シナイノニ、參與官ト云ヒマスカ、政務官
ナドガ飛出テ、サウシテソレハ政府デ以テ
調査シタコトガナイトカ、或ハドウダトカ
言フ、調査シタコトノナイモノガ、何故主
稅局ノ年報ニ掲ゲテアルカト言ツテ突込ム
ト、左右ヲ顧ミテ聞イテ見タリシテ、アル
ケレドモ、アレハ杜撰ナモノデ當ニナル
モノデハナイ、杜撰ナモノデ當ニナラナ
イト云フコトガ、政府當局トシテ言ヘルカ
ト言ツタ所ガ、何カ變手古ナ顔ヲサレタノデ
カラ、私ハ簡単ニヤリ、其出シテ來タモノ
ノ材料ヲ能ク見テミマシテモ、一向吾々ノ
レルト云フトイカヌ、簡單ニヤラレナイト
困ルト思ツテ、到頭ソレヲ出シテ來タノデス
ト平均ニナッテ居ルヤウナ處ハ賣買價格ガ
安イカト思フト、私ノ比較シテ居ル所ノ隣

マセウガ、高知縣ノ地價ト云フモノハ、
殊ニ畑ノ地價ハ非常ニ是マデ安イ、天下ノ
處ニハ高知縣ノ選出ノ方モ御出デニナリ
デス、今度僅ニ上ヲタ、ケレドモマダ之ヲ
比較シテ見マスルト、非常ニ跋ニナツテ居
ルノデアル、ソレデ私ハ之ヲ雪國ノ東北地
方ト比較スルナドト云フコトハ言ハナイ、
私ハ二毛作ガ取レ、三毛作モ取レルト云フ
ヤウナ此土地ヲ、東北ノヤウナ一毛作ガ漸
クデアリ、七年ニ一回早冷ガ來テ、不作デ
アルト云フコトガ確實グト云フヤウナ土地
ト、吾々ハ比較スルトハ言ハナイ、隣縣ノ
香川縣ト比較シ、徳島縣ト之ヲ比較シテ見
ルノデアル、即チ高知縣ニ於テノ今マデノ
地價ハ、一段歩平均ニ付テ二圓五十七錢四
厘ニナツテ居タ、ソレガ香川縣デハ十二圓
五十錢ニナツテ居タノデアル、幾ラ高知縣
ガ地所ガ悪イ、地味ガ悪イ、山ガ多イト言
テ見タ所ガ、二圓五十七錢四厘、香川縣方
十二圓五十錢、徳島縣ガ十二圓七十八錢三
厘トナツテ居ル、今度改正ヲ致シテ甲乙ガナ
クナッタ、茲ニ不公平ノ事實ガ無クナッタ
言フ賃貸價格ヲ覗ンデ見ルト、高知縣ガ僅
カ上ヲテ二圓五十何錢ノモノガ三圓十三錢
二厘ト相成リ、徳島縣ガ十二圓五十二錢九
厘ト相成リ、香川縣ガ十一圓五十八錢四厘
ト相成ツタ、三圓ト十二圓、三圓ト十一圓、
是デ負擔ノ公正ガ出來マスカ、山ガ多イ、
カ、山ヲ割ニ被ツテ居ルヤウナ縣ハ、殆ド大
半ハ山デアルト云フコトヲ見ナケレバナラ
ヌ、其土地ノ大半ハ山畑デアル所ノ山形縣
ガ、今日ノ賃貸價格ガ八圓二十錢八厘、山梨
縣ガ八圓四十四錢ニナルノデアル、之ヲ三
圓ニ比較致シマスト、非常ナ差デハナカ
ズ、是デモ負擔ノ公平ハ期シ得タト言ハレルカ

ト言デ吾々ハ突込ンダノデアリマス、然ルニ政府ニ於テハ色々言ハレマシテ、サウシテ主税局年報ニ出テ居ルヤウナル、此土地ヲ上中下三段ニ別ケタ所ノ、標準地ニ於ケル所ノ年々ノ賣買價格デアルトカ、賃貸料デアルトカ云フヤウナモノヲ、吾々ニ見セマイト努メラレタルモノデアリマスガ、吾吾ノ追窮ガ甚シカツタモノデアリマスカラ、之ヲ表ニシテ吾々ニ渡サザルヲ得ザルニシモゴザイマセヌ、即チ稅第三十三號ト致シテ、昭和四年土地賣買價格表ト云フモノヲ吾々ニ見セラレタ、是ハ一段歩當リデアリマス、即チ私共ガ比較致シマス所ノ高知縣ノ如キニ至リマシテハ、烟ヲ例ニ取リマスト、上等ガ四百圓デアリマス、中ガ二百五十圓ニナリ、下ガ百五十圓ト相成^シテ居リマス、即チ私共ガ比較致シマス所ノ高知縣ノ如キニ至リマシテハ、烟ヲ例ニ取リマスト、上等ガ三百二十圓、中ガ二百六圓、下ガ百十九圓デアルノデアリマス、又香川縣ノ烟ノ賣買價格ハ、上ガ三百圓、中ガ百八十圓、下ガ七十圓ト相成^シテ居ルノデアリマス、此事ヲ私共ハ見ナケレバナラヌノデアリマス、中ヲ取りマシテモ高知縣ノ二百圓ニ對シテノ七十圓デアルノデアリマス、ソレデ私ハ賃貸價格ガ約三層倍、四層倍ニ近イ所ノモノガ盛ラレテ、是デ香川縣ガ高知縣ニ比シテ非常ナル重課ヲ地租ノ上ニ於テ受ケルト云フコトニナシテ、是ガ世ノ中ニ發表サレタナラバ、囂然トシテ不満ノ聲ガ起上ルダラウト思フ、山形縣ノ如キニ於キマシテモ、上ノ烟ガ三百圓、中ノ烟ガ二百圓、下ノ烟ガ百二十圓ニナル、ソレカラ山梨縣ノ如キハ、上ノ烟ガ五百圓、中ノ烟ガ二百五十五圓、下ノ烟ガ百五十圓ニナシテ居ルノデア

リマス、斯ウ云フコトヲ考慮ニ入レマス時ニ於テ、政府ノ今回標準ニ取り入レラレタル所ノ賃貸價格ト云フモノハ、何等公平、公正ナモノヂヤナイ、舊地價ト何等其點ニ於テハ變々タコトガナイト云フコトヲ、私ハ此場合明カニ諸君ノ御理解ヲ願ハナケレバナラナイノデアリマス、政府ガ此賣買價格ト云フモノヲ發表ヲシナイ、近頃ニナッテ年報ニ掲ゲナイヤウニナッタナドト云フコトマデ言シテ、吾々ノ質問ヲ避ケヨウトサレタ、卑劣ニシテ陋劣ナル心事ニ至シテハ、私ハ之ヲ見遁スベカラザルモノト思タノデアリマスケレドモ、其心中ノ苦シサト云フコトヲ思ヒ遣シテ、之ヲ許シテヤッタノデアリマス（拍手）

斯様ニ土地ニ於テハ不公平ニナンテ居リマス、之ヲ色々ナアル例ヲ舉ゲテ申セバ、色々ナ比較モ出來ルノデアリマスケレドモ、私ハ煩ヲ避ケテ是ハ論ジマセヌ、田ニ於テモ同様ナルコトガアリマス、殊ニ宅地ニ於テハ甚シイモノガアルノデアリマス、負擔ノ激増ヲ避ケルト云フ口ノ下カラ、負擔ガ五倍ニモ六倍ニモ激増スルト云シテモ、是デ以テ負擔ノ激増デナインドト云フコトハ、ドモノガ、地方稅ニ於テ課セラレルト云フコトハ、吾々ハ一時モ頭ヨリ去シテハイケン倍ニモ六倍ニモ激増スルト云シテモ、是デ以テ負擔ノ激増デナインドト云フコトハ、ドウシテ言ハレマスカ、私ハ此五倍六倍ト云フコトハ、何時モ此稅ヲ考ヘル時ニ於テノデアリマス（拍手）今日ニ於テハ殆ド地租ト云フモノハ、是ハ國稅デアルカ地方稅デアルカ分ラヌ程ノ稅額ニ相成テ居ルノデアリマス（拍手）諸君ハ地租委譲ニ反對サレルト雖モ、事實ニ於テハ地方稅ノ方が餘計ナノデアル、倍額モ取シテ居ルノデアルカラ、事實ニ於テハ地方稅ニ委譲サレタニアリマスカラ、私ハ宅地ニ於テハドノ位ニ入レテ戴カナケレバナラヌ、都會ノ人ハ

分ラナイカラ、マダ鳴ヲ潜メテ居ルノデ
リマスガ、是等ノ事實ヲ知タナラバ、神經
ノ銳敏ナル所ノ都會地ノ住民ハドンナコト
ヲ言出スカト、吾々ハ心配シテ居ルノデアリ
マス（都會中心ノ民政黨ハ苦シカラウ）ト呼
フ者アリ）都會中心ノ民政黨ハ苦シカラウ、
ソレハ私共御察シスルモノデアルガ、公ト
私ト云フモノハ判然區別ヲシナケレバ相成
リマセヌカラ、私ハ苦痛ヲ忍ンデ、茲ニ六
都市ノ地租竝ニ附加稅ノ増加額ハ、ドレダケ
ガ宅地ニ於テ示サレルカト云フコトヲ、改
メテモウ一度諸君ノ御耳ニ達シ、國民ノ前
ニ之ヲ讀上ゲテ見タイト思フノデアリマス
即ナ六大城市ハ東京大阪京都神戸名古屋
横濱ヲ指スト云フコトハ、諸君ノ御承知ノ
通リデアル、ソレデ東京市ニ於テハ六百四
十四万圓、大阪ニ於テハ五百十八万圓、京
都ニ於テハ百二十四万圓、神戸ニ於テハ百
二十二万圓、名古屋ニ於テハ百六十二万圓、
横濱ニ於テハ八百八十一万圓、六市ノ合計ガ
千七百餘万圓ニ相成ルノデアリマス、之ヲ
平均致シマスト、二倍七割ノ大増稅ニ相成
ルノデアリマス、即チ二十七割ニ相成ルノ
デアリマス、東京市ニ於テハ二倍七割、大
阪ニ於テハ二倍九割、京都ニ於テハ二倍七
割、神戸ニ於テハ二倍三割、名古屋ニ於テ
ハ三倍餘、横濱ニ於テハ二倍一割ノ數字ニ
相成ルノデアリマス、個人ニ付テ之ヲ考ヘ
テ見マスト、最高ノ限度ハ三倍八割ニ止メ
ルト云フ法ノ精神デアル、併ナガラ附加稅
ノ法定ノ制限率ニ止メルト假定シテ考ヘテ
見マシテモ、本稅ニ附加稅ヲ加算スレバ、
是ハドレダケニナルカト云フト、最高限ノ
人ハ五倍二割マデハ賦課サレルト云フコト
ニ相成ルノデアリマス、斯ウ云フ激増ヲ致
シテモ、是デモ激増ニナラヌ、三倍八割ニ
止メル、ソレ以上ハ激増デアルガ、其以下
ハ激増デナイナドト云フコトハ、其理窟ハ
何處カラ生ミ出サレルカト吾々ハ考ヘナケ
レバナラヌ（拍手）コンナ大激増ト云フモノ

ハ果シテ此儘デ済ムカ、地主ハ我慢スルダ
ラウ、併ナガラ之ヲ借りテ居ル借地人或ハ
借家人ト云フモノニ、之ガ轉嫁サレルカサ
レナイカト云フコトニ付テ、更ニ重大ナル
問題ガ起シテ參ルノデアリマス(拍手)或ハ
是ハ物價下落、不景氣ノ今日デアルカラ、
地主或ハ家主ハ、サウ云フコトハヤルマイ
ト云フノガ政府當局ノ御辯明デアリマス、
併ナガラ今日ノ如ク經濟界ノ窮迫シタル狀
態ニ於テ、當然ヤルベキモノヲ、其人ノ道
徳心ノ抑制ニ依シテ之ヲヤラナイナドト云
フコトハ、吾々ハアリ得ナイデハナイカト
考ヘラレルノデアリマス、法律ハ當然之ヲ
ヤリ得ルヤウニ規定ヲ致シテ居ルノデア
ル、即チ諸君ノ御承知ノ通り、借地法、借
家法ト云フモノハ、何ヲ物語テ居ルカト云
フコトヲ、新シタ諸君ノ前ニ御紹介ヲ致サ
ナケレバナラヌノデアリマス(拍手)
即チ借地法ノ第十二條ニ於キマシテハ、
土地ニ對スル租稅——之ニ色々ナ關係以外
ノコトガ書イテアリマスカラ、是ハ省キマ
スルガ、土地ニ對スル租稅ガ、地代又ハ借
賃ニ比較シテ不相當ナルニ至リタル時ハ、
一定ノ期間地代又ハ借賃ヲ増加セザル特約
ナキ時ニ限り請求スルコトヲ得ト書イテア
ル、是ハ土地ニ對スル租稅、地租ト云フモ
ノガ上ツタ場合ニハ特別ノ約束ガナイ限り
ハ、地代又ハ借賃ト云フモノヲ增加スルコ
トガ出來ルト云フ法律ノ規定ガアルノデア
リマス、ソレカラ借家法ノ第七條モ、建物
ノ借賃ニ付キ云々トアッテ、是ハ同ジ規定ニ
ナシテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカ
ラ地租ノ増加ノ爲ニ、借地人、借家人ハ法
律上當然値上ノ請求ヲ受ケルト云フコトニ
相成シテ居ル、是ガ一人ニ付キ最高五倍二割
マデ上ルト云フ今日ニ於テ、借地人ヤ借家人
ノ脅威トナラナイト云フコトハ、誰ガ言ヒ
得ルカト私ハ論斷セザルヲ得ナイノデアリ
マス(拍手)

ルト、此地租法ト云フモノハ、幾多ノ不合
理ヲ私共ノ前ニ陳列ヲサレテ居ルノデアリ
マス、私ハ内容ニ付テソレム、政府ノ答辯
ヲ求メタノデアリマスガ、頗ル曖昧模糊ナ
ル答辯ヲ致シテ、到底私ノ質問ヲ正面カラ
之ヲ論難スルコトガ出來ズ、遂ニ私ノ質問
ノ要旨ハ之ヲ認メタノデアリマス、併ナガ
ラ意見ガ違フト言ッテ逃ゲラ打ッタノデアリ
マスガ、私ノ眼カラ見マスレバ、是ダケノ
モノヲ減税ヲ致シタ云フコトヲ言ヒタイ
ガ爲ニ、態ト増税ニナル部分ヲ隠シテ置イ
タト云フ事實ガ一ツ、尙ホ今回ノ賃貸價格
ハ各地目ノ間ニ、所謂田地田畠宅地ノ間
ニ多少不平等トナル、上ダタモノガアリ、
下ダタモノガ生ズルカモ知レヌケレドモ、賃
貸價格全體ノ上ニ於テハ大ナル増減ヲ示サ
ナイ、大ナル増加ヲ致サナイト云フヤウナ
コトヲ建前ニシタト云フロガアルモノデア
リマスカラ、増加スル部分ハ色々工夫ヲ致
シテ、サウシテ之ヲ増加セシメナイヤウニ
數字ヲ作上ゲタト云フコトガ、事實ノ上ニ
諸君ノ御批判ヲ仰ギタク、斯様ニ考ヘテ居
ル次第デアリマス、即チ第一點ハ自作農ノ
實ハ澤山アルヤウデアリマスガ、主ナルモ
ノ、二三ニ付テ私ハ茲ニ紹介ノ勞ヲ執ツテ、
テハ、當然今回賃貸價格ガ制定ヲサレ、地
價ニ代ルコトニナシテ、サウシテ畠地ニ付テ
大體ニ於テ幾分カ總平均ハ下ッテ居ルノデ
アリマス、賃貸價格ガ下ッテ居ルノデアリ
マスカラ、二百圓未満ノ地價ヲ有シ自作ス
ル者ハ、之ヲ國稅地租ヲ免除致シタノデア
リマシテ、是ハ府縣稅ノ特別地稅ト云フモ
ノ、課稅標準ニ變ツテ參ルノデアリマス、國
稅ニ於テ免稅ヲサレルノデアリマスガ、是
ガ賃貸價格ノ二百圓未満ト云フコトニ改正
ヲサレ、是デ舊地價ニ換算シテ見マスト、
約二百四十圓マデハ免稅ヲサレル形ニ相成
リ、是ダケ課稅基本額ハ増加サレルト云フ

コトニナル、即チ免稅點ノ引上ト同ジヤウ
ナ效果ヲ持シテ居ル、詰リ小農保護ノ意味ガ
此處ニアルンダナドト言シテ威張ラレルノデ
アリマスガ、其免稅ニナル免稅點ガ引上シ
テ、ドレダケノ面積ト云フモノガ、之ニ依シ
テ保護ヲ餘計ニ加ヘルコトニナッタカト云
フト、約二十二万町歩デアルノデアリマス、
今迄ノ自作農ノ面積ハ約百三十万町歩、今
回ノハ百五十二万町歩ニ相成ルノデアリマ
ス、左様ニアリマスカラ、其差二十二万町
歩ト云フモノハ、今回更ニ國稅ノ免稅ヲ受
クルノデアリマス、二十二万町歩ニ對スル
所ノ四・五ト云フ在來ノ稅率ヲ掛ケマスト、
是方百二十五万圓ニナルノデアリマス、三・
八ヲ掛ケマシテモ、是ガ百十三万圓ニナル
百二十五万圓乃至百十三万圓ト云フモノ
ハ、當然はハ減稅ニナラナケレバナラヌ、
今度ノ地租額カラ是ハ當然引去ラレテ居ラ
ナケレバナラヌノデアリマスガ、此事
實ガナイノデアリマス、左様デアリマ
スカラ、全體ニ於テ私共ハ是ダケノ數字
ト云フモノハ増稅ニ相成テ居ル形ニ
ナツテ、此減稅案ガ現ハレタト云フコト
ヲ看透スコトハ出來ナイノデアリマス、
ソレデ吾々ハ色々ナ工夫ラシテ覗イテ見
マシタガ、色々計算ヲシテ見マシタガ、兎
モ角總體カラ此數字ヲ引イテ計算シテ見マ
シテモ、最少限度ニ於テ八十三万圓ト云
フモノガ、ドウシテモ是ガ增稅ニ相成テ居
ル、是ハ減ズベキモノヲ減ジテ居ナカッタト
云フコトヲ、私共ハ明カニ致シタノデアリ
マス(拍手)即チ改正法ニ於テハ賃貸價格二
百圓未満ノ免租地ト云フモノハ、田畠合計
約百五十二万町歩ニナツテ居ル、詳シク言フ
ト百五十二万一千二百二十一町歩デアリマ
スガ、即チ現行ノ地價二百圓未満ノ免租地
ノ増加ニナツテ居ルノデアリマスカラ、免租
地ノ増段別ニ對スル地租ト云フモノハ、斯

ウ云フ計算ニ相成ルコト、思フノデアリマス、即チ現行自作農ノ免租地ノ段別百三十九町ニ對スル地租額ハ七百三十九万圓デアルカラ、二十二万町歩ニ對スル免租額ト云モノハ百二十五万圓、斯ウナルト云フトハ、先程申上ゲタ通りデアリマス、是ハ諱クナリマスガ、参考ノ爲ニ申上、ゲルト、改正ノ方デハ免租地ハ七百八十二万圓ニナッテ居リマスカラ、之ヲ百五十二万町歩デ割ツテ、サウシテ二十二万町歩フ掛ケ合セルト百十三万圓ト云フ數字ガ出テ參ルノデアリマス、ソレデアルカラ免租地ノ段別ノ内二十二万町歩ト云フモノハ、國稅カラ當然落サレテ、地方稅タル特別地稅ノ課稅基準トナルモノデアルカラ、此分ノ地租額百二十万圓ト云フモノハ、當然吾々ハ改正ノ基準タル地和總額カラ落シテ置カナケレバナラヌ、ソレヲ加ヘテ増減ガ餘リナイト言フ、吾々ハ之ニ對シテ大ナル不満ヲ懷イテ居ルバカリデナク、是ダケノ増稅ニナルヤウナコトヲ來シテ居ルト云フコトハ明カデアル、ト云フノハ此部分ヲ當然除イテ、サウシテ是ダケノモノデ増減ナキ範圍ト云フコトデナケレバ、此當然隱レタル所ノ百二十万圓ト云フモノハ、其他ノ土地ニ向シテ全部轉嫁サレタト云フコトニ相成ルノデアリマスカラ、是ダケノ免稅點ヲ引上ゲタト云フ言葉ハ立派デアルガ、引上ゲタガ、ソレハ隣リノ人タノ負擔ヲ引上ゲタ、斯ウ云フコトニ相成ルテハ一向利目ガナイデハナイカト私ハ考ヘル、之ヲ詳細ニ私ハ數字的ノ根據ヲ申上げテモ宜イノデアリマスガ、時間ガ大分經^テ居リマスカラ、私ハ此問題ハ此程度ニ止メテ次ノ問題ニ移リマス第二ノ點ハ、三倍八割ニ制限ヲシタト云フコトニ付テ、不合理デアルト吾々ハ言ハナケレバナラヌノデアリマス、三倍八割デ之ヲ止メタト云フノハ何故デアルカ、此前ノ原案昨年出サウト思^タケレドモ、議會ガ解散ニナタカラ出シ得ナカタノデアル、其時分

ニハ四倍五割ニ止メヤウト云フ案デアリタ
ガ、今回ハ三倍八割ニ止メタ、計算ニ難易
ガアル、計算ニ便利ノ爲メダカラ云々ト云
フヤウナコトヲ言ハレマシタガ、此前ノ明
治四十三年ノ時分ニハ、非常ニ細カイ計算
ヲサレタノデアリマス、即チ一方ニ於キマ
シテハ、宅地ニ於キマシテモソレ。ノ不
平等ナル所ノ税率ガ盛ラレテアツ、色々ナ
ル關係ニ於キマシテ、郡村宅地ハ市街宅地
トハ違シテ居ル、郡村宅地ハドウデアル、市
街宅地ハドウデアル、詰リ市街宅地ハ百分
ノ二十デアリ、郡村宅地ト云フモノハ百分
ノ八デアル、斯ウ云フヤウナ不平等ナル租
率デアリ、又他ノ地目ノ土地ニ於テモ、ソ
レゾレ違シタ課率ガアッタノデアルカラ、之
ヲ平均ニ見ヤウトスルニハ、一率ニ行カズ
ニ、此倍數ノ制限ト云フモノハ、ソレドモ
異シタ標準デヤル、即チ市街宅地ニ於テハ十
八倍ソレカラ郡村宅地ニ於テハ七倍二割ト
云フヤウナコトヲ取ッテ、サウンシテ此課率ノ
遠シタコトヲ平均シヤウト云フヤウナ面倒
モ進歩シタル今日ニ於テ、面倒ダカラナド
ナル努力ヲ、四十三年ニ於テハ拂ハレタノ
ト云フコトハ、到底理窟ニ相成ラヌト吾々
ハ考ヘテ居ル、ソレデ私共ハ此土地ノ制限
率ヲ見マスル時ニハ、田地ニ於テハ約四倍
五割、宅地ニ於テハ僅ニ二倍五割、其他ノ
土地、即チ山林原野ノ如キモノニ至テハ
五倍五割マデニ、制限ヲ高メラレテ居ルト
云フヤウナ事實ヲ看透ガシテハイカヌト、
斯様ニ考ヘテ居ルバカリデナク、三倍八割
トシタ爲ニ、税額デ約二百万圓ト云フモノ
云フモノハ、當然負擔シナケレバナラヌ大
資産家階級ノ負擔ヲ、其他ノ人々ノ頭ニ轉
嫁シテ顧ミザル所ハ、大資産保護デアルト
吾々ハ謂ハナケレバナラヌノデアリマスル

(拍手)吾々ニ示サレタル例ニ依リマシテモ、東京ノ中央ニ在シテ、昔ハ原デアフタモノガ、今日ハ東京繁華ノ中心ニナッテ居ル東京驛前ノ、アノ丸ノ内ノ地所ガ、僅カ十圓前後デアフタモノガ、今日此六大城市最高地價比較表デ見マスト百圓ト云フ賃貸價格ヲ持ツテ居ルノデアリマス、名古屋ノ中區邊リニ於キマシテモ、之ニ類スル所ノ急激ナル地價ノ増加ヲ來シテ居ルノデアリマス、賃貸價格ト云フモノハ、左様ニ十倍ニ近イ割合ヲ以テ上シテ居ル、斯ウ云フ處ヲ三倍八割ニ止メ、繁華ノ程度ノ劣シテ居ル處ハ三倍八割精一バイ取ルト云フコトニ於テ、私ハナル負擔ノ不公平ガ此處デ起ルノデハナイカト思フ、高橋ハ左様ニ言フケレドモ、大ナル資產家バカリデハナイ、小サナル地主モ激増地ニハ少クナイト言ハレマスケレドモ、斯ウ云フヤウナ急激ナル變化ガアッタヤウナ丸ノ内デアルトカ、名古屋ノ中區邊リニハ、大地主デナケレバ到底斯ンナ高高地所ヲ持切ル譯ニハ行カヌト云フ事實ガアルコトヲ、私共ハ拒ミ得ナイト思フノデアリマス、サウスルト、要スルニ三倍八割デ止メタト云フコトハ、即チ之ニ依ツテ大資產家コトヲ、私共ハ拒ミ得ナイト思フノデアリマス、サウスルト、要スルニ三倍八割デ止メタト云フコトハ、即チ之ニ依ツテ大資產家階級ノ反感ヲ緩和シヨウト云フ卑劣ナル考デ此率ヲ定メタモノデアルト云フコトハ、ドウシテモ否ミ得ナイト吾々ハ考ヘル、サウシテ大資產家階級ノ負擔スペキ所ノ三倍八割以上ノ増加額ト云フモノヲ、其他ノ一般ノ下級ノ土地ニ轉嫁スルニ至シテハ、何タル不當事デアラウカト吾々ハ考ヘザルヲ得ナイノデス、即チ一般地租納稅者カラ見マスレバ、是ダケノモノハ當然減額サレ得ベキモノヲ、轉嫁サレタガ爲ニ減額ヲサレ得ナカタト云フコトハ、大ナル不公平デアリ、一方ニ於テハ消極的大增稅デアルト吾々ハ謂ハナケレバナラヌ

第司ノ中ニ藏テ置イテ、地租法ガ改正ニナリ、宅地ノ税率ガ暴騰シテカラ、初メテソロソロ——烟ガ宅地ニ變タタ、山林ガ宅地ニ變タト云フ、無届異動地ノ整理ト云フモノノ其成績ヲ、地租ノ課率ガ變タテカラ、自然增收ノ形デ茲ニ持出サウト云フヤウナ、隱レタル大増税計畫ト云フモノヲ吾々委員會ハ看破致シタノアリマス(拍手)之ニ對シテハ十數時間ヲ費シ、熱心ナル質問應答ヲ重ねタ其結果、初メハ政府ハ容易ニ落城ハシナカタガ、到頭終ヒニハ降参ヲ致シテ、シナカタガ、到頭終ヒニハ降参ヲ致シテ、其通リノ計算ニナリマスト言タノデアル、併ナガラ其答辯ノ中ニモ、マダ隠レテ居ル事實ガアルノデアリマス、ソレハ百六十餘万圓——私ノ計算ニ依ル百九十餘万圓ニナルノデアリマスカラ、約二百万圓、是ハ當然今回ノ地租法ノ基準デアル所ノ現在地租總額ノ計算ニ現ハレナケレバナラヌ、何故私ハ之ヲ言フカト云ヘバ、今ヨリ二年前、昭和四年度ヨリ始マリ、昭和五年度、昭和六年度ノ三箇年ニ、百餘万圓ノ國帑ヲ費シテ之ヲ調査致シテ居ルノデアル、既ニ昭和四年度、五年度ニ於テ調査致シタモノハ、ソレタノ市町村役場ノ土地臺帳ニ記入ヲサシテ居ルノデアリマス、此異動ト云フモノハ將來ニ起ルモノデナクシテ、既ニ異動ト云フモノハ明カニナッテ居ルノデアル、臺帳ニ之ヲ掲ゲテ居ルノデアル、移動ノ手續ハ大半済ンデ居ルノデアル、ソレヲ此地租法ヲ制定スルニ方タテ、減税案ヲ討議スルニ方タテ、其明カナル所ノ地租額ト云フモノヲ傍ニ取タテ置イテ、サウシテ將來ノ增稅計畫ノ材料ニ供サウトシタノハ、茲ニ看透スペカラザル、寧ロ不正ガアルト私ハ論ズルノデアリマス(拍手)左様デアリマスカラ、此事實ハ私ハサウ簡單ニハ之ヲ看透シテ行ク譯ニハ參ラヌト思フノデアリマス、ソレデ此額ト云フモノハドノ位ニナルカト云フト、政府ハ百十一萬四千餘圓ニアルト云フ、是ハ宅地課率二・五ヲ課ケタ數字

ト云フモノヲ之ニ掛ケテ行クト、其稅額ハ百九十六万五千圓ニナル、其差引額八十五萬圓ダケハ隱レテ居ルノデアル、此事實ハシナカタガ、到頭終ヒニハ降参ヲ致シテ、其通リノ計算ニナリマスト言タノデアル、併ナガラ其答辯ノ中ニモ、マダ隠レテ居ル事實ガアルノデアリマス、ソレハ百六十餘万圓——私ノ計算ニ依ル百九十餘万圓ニナルノデアリマスカラ、約二百万圓、是ハ當然今回ノ地租法ノ基準デアル所ノ現在地租總額ノ計算ニ現ハレナケレバナラヌ、何故私ハ之ヲ言フカト云ヘバ、今ヨリ二年前、昭和四年度ヨリ始マリ、昭和五年度、昭和六年度ノ三箇年ニ、百餘万圓ノ國帑ヲ費シテ之ヲ調査致シテ居ルノデアル、既ニ昭和四年度、五年度ニ於テ調査致シタモノハ、ソレタノ市町村役場ノ土地臺帳ニ記入ヲサシテ居ルノデアリマス、此異動ト云フモノハ將來ニ起ルモノデナクシテ、既ニ異動ト云フモノハ明カニナッテ居ルノデアル、臺帳ニ之ヲ掲ゲテ居ルノデアル、移動ノ手續ハ大半済ンデ居ルノデアル、ソレヲ此地租法ヲ制定スルニ方タテ、減税案ヲ討議スルニ方タテ、其明カナル所ノ地租額ト云フモノヲ傍ニ取タテ置イテ、サウシテ將來ノ增稅計畫ノ材料ニ供サウトシタノハ、茲ニ看透スペカラザル、寧ロ不正ガアルト私ハ論ズルノデアリマス(拍手)左様デアリマスカラ、此事實ハ私ハサウ簡單ニハ之ヲ看透シテ行ク譯ニハ參ラヌト思フノデアリマス、ソレデ此額ト云フモノハドノ位ニナルカト云フト、政府ハ百十一萬四千餘圓ニアルト云フ、是ハ宅地課率二・五ヲ課ケタ數字

ト云フモノヲ之ニ掛ケテ行クト、其稅額ハ百九十六万五千圓ニナル、其差引額八十五萬圓ダケハ隱レテ居ルノデアル、此事實ハシナカタガ、到頭終ヒニハ降参ヲ致シテ、其通リノ計算ニナリマスト言タノデアル、併ナガラ其答辯ノ中ニモ、マダ隠レテ居ル事實ガアルノデアリマス、ソレハ百六十餘万圓——私ノ計算ニ依ル百九十餘万圓ニナルノデアリマスカラ、約二百万圓、是ハ當然今回ノ地租法ノ基準デアル所ノ現在地租總額ノ計算ニ現ハレナケレバナラヌ、何故私ハ之ヲ言フカト云ヘバ、今ヨリ二年前、昭和四年度、五年度ニ於テ調査致シタモノハ、ソレタノ市町村役場ノ土地臺帳ニ記入ヲサシテ居ルノデアリマス、此異動ト云フモノハ將來ニ起ルモノデナクシテ、既ニ異動ト云フモノハ明カニナッテ居ルノデアル、臺帳ニ之ヲ掲ゲテ居ルノデアル、移動ノ手續ハ大半済ンデ居ルノデアル、ソレヲ此地租法ヲ制定スルニ方タテ、減税案ヲ討議スルニ方タテ、其明カナル所ノ地租額ト云フモノヲ傍ニ取タテ置イテ、サウシテ將來ノ增稅計畫ノ材料ニ供サウトシタノハ、茲ニ看透スペカラザル、寧ロ不正ガアルト私ハ論ズルノデアリマス(拍手)左様デアリマスカラ、此事實ハ私ハサウ簡單ニハ之ヲ看透シテ行ク譯ニハ參ラヌト思フノデアリマス、ソレデ此額ト云フモノハドノ位ニナルカト云フト、政府ハ百十一萬四千餘圓ニアルト云フ、是ハ宅地課率二・五ヲ課ケタ數字

ト云フモノヲ之ニ掛ケテ行クト、其稅額ハ百九十六万五千圓ニナル、其差引額八十五萬圓ダケハ隱レテ居ルノデアル、此事實ハシナカタガ、到頭終ヒニハ降参ヲ致シテ、其通リノ計算ニナリマスト言タノデアル、併ナガラ其答辯ノ中ニモ、マダ隠レテ居ル事實ガアルノデアリマス、ソレハ百六十餘万圓——私ノ計算ニ依ル百九十餘万圓ニナルノデアリマスカラ、約二百万圓、是ハ當然今回ノ地租法ノ基準デアル所ノ現在地租總額ノ計算ニ現ハレナケレバナラヌ、何故私ハ之ヲ言フカト云ヘバ、今ヨリ二年前、昭和四年度、五年度ニ於テ調査致シタモノハ、ソレタノ市町村役場ノ土地臺帳ニ記入ヲサシテ居ルノデアリマス、此異動ト云フモノハ將來ニ起ルモノデナクシテ、既ニ異動ト云フモノハ明カニナッテ居ルノデアル、臺帳ニ之ヲ掲ゲテ居ルノデアル、移動ノ手續ハ大半済ンデ居ルノデアル、ソレヲ此地租法ヲ制定スルニ方タテ、減税案ヲ討議スルニ方タテ、其明カナル所ノ地租額ト云フモノヲ傍ニ取タテ置イテ、サウシテ將來ノ增稅計畫ノ材料ニ供サウトシタノハ、茲ニ看透スペカラザル、寧ロ不正ガアルト私ハ論ズルノデアリマス(拍手)左様デアリマスカラ、此事實ハ私ハサウ簡單ニハ之ヲ看透シテ行ク譯ニハ參ラヌト思フノデアリマス、ソレデ此額ト云フモノハドノ位ニナルカト云フト、政府ハ百十一萬四千餘圓ニアルト云フ、是ハ宅地課率二・五ヲ課ケタ數字

闘シテモ、二百七十名デ以テ漬シテシマハウト云フノデアルカラ、
諸君ニハ睡ヲテ貰ノタ方ガ議事ノ進行ノ上ニ
ハ都合ガ好イノダ「傍聴席デ聽イテ居ル
ゾ「ト呼フ者アリ」吾々ハ傍聴席ヲ標準トシ
テヤフテ居ルノデハナイ、諸君ノ間違タ觀
念ヲ、吾々ハ其睡リカテ覺サウトシテ居ル
ノデアルソレガ吾々ノ眞ノ目的デアルカ
ラ、諸君ハ其積リデ成ベク齎浦ヲ保タレタ
方ガ、諸君ノ爲ニ、利益ナリト吾々ハ考ヘ
ル、ソレデ私共ハ一而此法案ニ付テ幾多ノ
缺點ヲ發見スルノデアルガ、殊ニ財源ニ關
シテ大ナル疑義ヲ挿ンデ居ルノデアリマ
ス、諸君ハ大聲ヲ揚ゲテ、倫敦條約ニ依テ
海軍ノ補充計畫ニ取テ置イタル所ノ留保
源五億八百万圓ノ中カラ、大蔵大臣ガ非
常ニ腕ニ疊ヲ掛ケテ、海軍大臣ト取組ンデ、
遂ニ其中ノ四分ノ一ハ取テシマッタ、即チ
二割六分ハ取テ、之ヲ減税ニ向ケルノハ偉
イヂヤナサイカト言フテ、大分威張ラレル、大
分威張ラレルバカリデナク、討論者ノ或ル
一人ノ如キハ、倫敦會議ガ若シモ破レタナ
ラバ、今頃ハ大増税ヲ食テ居ルデハナイ
カ、減税ハ愚カナコト、國民ハ大増税ニ苦
マナケレバナラナイデヤナイカナンテ、物
識顔ニ此處デ言ハレタノデアル、何ヲ見テ
ソンナ夢ヲ見テ居ルノカ、夢ニ怯ヘタ子供
ノ譲譯ミタイナモノデアル(拍手)諸君ハ倫
敦會議ニ臨ムニ當ラテハ、倫敦會議開催以前
ニ於テ、英米ノ間ニ豫備會議ノアッタト云フ
コトヲ忘レテハイカ又ノデアリマス、豫備
會議ニ於テハ如何ナルコトガ議セラレタ
カ、豫備會議ニ於テハ、華盛頓條約ニ於テ
認メラレタル所ノ主力艦ノ建造ト云フモノ
ハ、更ニ或ル年限ノ間延期シヨウデヤナイ
カ、代換建造モヤメヨウデハナイカト云フ
決議ガアル、他ノ事件ナリ補助艦ニ關スル
所ノ條約ノ締結ハ出來ナクテモ、是ダケハ
通サウデハナイカ、此成案ガ出來ナカッタ
ナラバ、來年ノ夏ニ更ニ華盛頓デ會議ヲ開

カト云フヤウナコトガチヤント分^ノテ居ル、主力艦ナドハアノ倫敦會議ガ不幸ニシテ——不幸ト言フカ、幸ト言ハウカ、出來上ラナクトモ、此處ニ於テ何等國民ノ負擔ノ増加ナドヲ來スモノデハナシ、況ヤソノナ餘計ナコトヲセズ、三大原則ト云フモノヲ其儘デ居タナラバ、殊ニ力ヲ入レタ所ノ潜水艦ト云フモノヲ、現在ノ保有量ヲ吾々ガ持^ツテ居タトシタナラバドウデアルカ、但等國防ノ上ニ缺陷ガ無イデハナイカ、吾吾ハ七万八千噸ノ潜水艦ノ保有量ト云フモノヲ握^ツテ居タノニ、倫敦會議テ之ヲ三分ノ一ヲ減ゼラレテ、五万二千餘噸ニ減ラサレルト云フコトデアルカラ、無理ナコトヲシナケレバナラヌノデアル、殊ニ吾々ハ大型巡洋艦ヲ要求ダケ持^ツテ居タラドウデアルカ、吾々ハ既ニ海ニ浮ベルモノヲ八艘、竝ニ其當時ニ於テ四艘ノ「キール」ニ昇^ツテ居タ、斯^ク云フ十二艘ト云フモノガアル、更ニ吾々ハ要スルダケノ十二万噸ト云フモノヲ持^ツグラドウデアルカ、ソレヲ不幸ニシテ財部ト云フ當時ノ海軍大臣ガ、今ノ海軍大臣ハ當時倫敦ニ居ラレタカラ能ク覺エテ居ラレルデアラウガ、事モアラウニ十二艘ト十二万噸ト間違ヘタナド、云フニ至^テハ何事デアルカ(拍手)ソレニ「ジユネーブ」會議ニ於テ、吾々ノ有スル七千一百噸デ、八時砲ヲ載セテ居ル所ノ加古級ノ巡洋艦ト云フモノハ世界ノ脅威ニナシタ其場合ニ是ト比較サル、所ノ英吉利ニ四艘ノ巡洋艦ガアル、是ハ噸數ニ於テハ九千九百噸デ、一万噸カラ百噸バカリ足リナイ、又搭載スル所ノ大砲ノ口徑ニ於テハ八吋ハ無イケレドモ、七吋半アルト云フ、ソレト我國ニ於ケル七千一百噸ノ小サイ體デアッテ、之ニ八時砲ヲ載セルモノヲ比較致シテ、共ニノレナイト云フノデ日米比率六割五分^ノアッタカ、サウ云フ比率ニナッテ居ル、其有名

ナ四艘ノ軍艦ノ七千一百噸ノ軍艦デアルト
云フコトヲ頭カラ忘レ去テ、之ヲ加ヘテ十
二艘ニナツテ居ルノニ氣付カズニ居タノデ
アル、ソレデアルカラ亞米利加ハ十五艘
十五万噸デアルケレドモ、日本ノ大型巡洋
艦ト云フモノハ、今保有致シテ居ル所ノ現
在ノモノダケデハ十二艘デアルケレドモ、
十二万噸ニナラナイデ十万八千四百噸トナ
ルノデアル、斯ウ云フヤウナ事實ヲ忘レテ
シマッテ、十二万噸ト十二艘ト間違ヘテ、サ
ウシテ鳶ヲ付ケタナド、云フコトハ、實ニ
私ハ惜慨ニ堪ヘナイ、ソレバカリデハナ
イ、無事ニ日本ナドニオメノ歸シテ來ラ
レル筈ハナイト私ハ考ヘルノデアリマス
(拍手)ソレデアルカラ吾々ハ倫敦會議ナド
ニ破レテモ、主力艦ニ於テハ艦齡ヲ延長致
シテ、代換ノ建造ヲ、九箇年ノ間ト思テ居
リマスガ、止メヨウト言ッテ居ル、更ニ大型
ノ巡洋艦サヘ吾々ガ尙ホ二艘ヲ持ッテ居レ
バ、何モ小型ノ乙級巡洋艦ナドヲ殖シテ置
ク必要ガ無イ、驅逐艦ナドハ多ク殖ス必要
ガ無イ、潛水艦サヘ七万八千噸ノ保有量ヲ
存續シ得レバ、殊ニ世界ニ於テ日本ノ海軍
軍人程潛水艦ヲ巧ミニ使ヒ得ル者ヘ無イト
云フコトハ定評ヂヤナイカ、其體軀ノ小サ
イコトガ幸ヲ爲シ、忍耐力ノ強イト云フコ
ト、食物ヲ吾々ガ動物質ヲ攝ラヌデモ宜シ
トイ云フヤウナ、色々ナ關係カラ、潛水艦
ノ勤務ト云フモノハ最モ日本人ニ適スル、
世界ニ是ト比較スル者ガ無イト云フコトニ
ナツテ居ル、サウ云フ銳イ立派ナ武器ヲ捨
テ、サウシテ日本ニ於テハ餘リ威力ヲ發
揮シナイ、世界デモ見捨テラレカケテ居
ル、亞米利加邊リテ第二豫備、第三豫備トナ
シテ、軍港ノ奥ニ繫イデ置クト云フ驅逐艦
ナドト同ジ待遇ヲ受ケルト云フヤウナ馬鹿
ナコトハ、何事デアルカラ私ハ言ヒタイ、
ソレデアルカラ倫敦會議ナンゾハ潰シタ方
ガ、日本ノ海軍力ヘ更ニ立派ニナリ、吾々
ガ是ガ爲ニ負擔ハ減少コソスレ、何等負擔

ノ增加ナドハ來シ得ナイ、所謂國防ノ經濟化ノ實モ之ニ依テ舉リツ、アリ、其通り海軍ハ進ンデ居タヂヤナイカ(「暴論ダ」ト呼フ者アリ)騒グノハ廢メ給ヘ、暴論ヂヤノイ、實際サウヂヤナイカ、潛水艦ノ如キハドウデアルカ、條約ニ於テ十三年ガ艦齡アル、十三年ガ艦齡アルニ拘ラズ、我ガ國ニハ今回ノ補充計畫デ十一年ノモノヲドスルナラバ、十三年ノモノハ十七年ニ繰延ベレバ、相當財源ニ餘裕ヲ生ズルノニアル、其位ノコトハ日本人ハ器用アルカラ、何デモナイコトデアル、或ハ其間ニ諸種ノ改良ナドヲ加ヘレバ、何デモナク出來ルコトデアル、ドノ點カラ行テサウデアル、ソレヲ擱ヘテ、何處デ聽キ習ッタカ知ラヌ何モ驅逐艦デアルトカ、或ハ小型ノ巡洋艦ナドハ、之ヲ餘計捨ヘル必要ハナイト云フコトヲ、吾々ハ此處デ言明スルノデアル、ソレヲ擱ヘテ、何處デ聽キ習ッタカ知ラヌケレドモ、下ラヌコトヲ言ツテ、サウシテ大聲ヲ揚ゲルナドト云フコトヘ、笑止千萬ト言ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)ソレバカリデハアリマセヌ、吾々ハ其他ニモ海軍ノ問題ニ付テ色々論議スベキ點ガアル、殊ニ私ハ海軍大臣ヲ責メルヨリヘ、大藏大臣ハ何ヲヤツテ居ルノダ、委員會ニ於テアナタノ發表シタ意見ガアルガ、此海軍條約ニ關シ、海軍ノ建造計畫ニ對シ、ドウ云フ意見ヲ持テ居ルカト云フコトノ前提ト致シテ、アナクガ「經濟往來」ト云フ雑誌ノ二月號ナドト、他ノ機會ニアツカヤウナ工合ニ胡麻化スカト思テ、私ハ愈々押シテ聞イタ所ガ、其通りデアルト答ヘタ、私ハ今モ其通り意見デアルト答ヘタ、ソレデ私ハ改メ

テ論ズル、ソレデ宜シイ、私ハ時間ガナニ
カラ論議ヘ他ノ機會ニ譲ルト言タ、ソレデ
私ハ其控フ持テ居ルガ、斯ウ云フコトデア
ル「我國財政及經濟ノ現状ト其將來」ト丁寧
ニ附錄トシテ、アナタノ論說ヲ特別待遇ニ
致シテアル、ソレデ井上準之助トアリ、色
色ノコトヲ説明シテ「我國財政ノ現状」、「軍
縮剩餘金ノ性質」ト云々テ色々ノコトヲ説明
サレ、其次ニ「留保財源ノ使途」ト云フコト
ニナリマス、ソコデ此處ニ問題ニナリマス
ノハ、斯ウ云フコトデアル、少シク長クナ
サマスカラ、一分間位デ讀上ダマスカラ、
我慢ヲシテ聽イテ戴キタイ、此留保財源ノ
五億八百万圓ノ中デ、三億七千四百万圓ダ
ケヲ海軍ノ補充計畫ニ取ツタノデアリマス、
殘リノ一億三千四百万圓ヲ、昭和六年度カ
ラ十一年度マデ減税ニ持テ行タノデアリ
マス、隨テ平年ニハ二千五百万圓ヅ、毎年
減税ヲスルコトニナリマス、海軍ノ補充計
畫ノ詳細ヲ申述、ベル自由ハナイノデアリマ
スガ、大體ヲ申シマスト、海軍ノ軍縮條約
ニ依リ與ヘラレタル權利ノ全部ヲ實行シ、
尙ホソレ以外ニモ「オブショヨン」ノアリマ
ルモノハ大部分實行シテ、ソレ以外ニ航空
隊ヲ擴張スルノデ、ソレニ依シテ三億七千
四百万圓ノ金ヲ使用スルノデアリマス、減
税ニ振向ケル一億三千四百万圓ガ少イト云
フコトノ非難ガアルノデアリマスガ、上ニ
敢テ國民諸君ニ申上ダタノデアリマス」
トスウ言ッテ居ル、自分ハ間違タ、是ハ間
違タトハ——貴方ハ斯ンナ事ハ言ハレマ
スマイ、苟モ大藏大臣トシテ、天下ノ耳目
ヲ引ク奉答文トナッテ「陛下ノ御左右ニ奉、
タ其奉答文、或ハ敷奏文トモ申シマスルカ、
政府カラ見マスレバ敷奏文、軍事參議官會
議カラ云ヘバ奉答文、其計畫ニ基イテ慎重
ニ審議ヲ爲サレタル所ノ此案件ニ對シテ、

間違タル意見ヲ、國民ニ知ラシムルナゾト
ニヤウナコトヲ發表ナサラウトハ思ヘナ
致シテアル、ソレデ井上準之助トアリ、色
色ノコトヲ説明シテ「我國財政ノ現状」、「軍
縮剩餘金ノ性質」ト云々テ色々ノコトヲ説明
サレ、其次ニ「留保財源ノ使途」ト云フコト
ニナリマス、ソコデ此處ニ問題ニナリマス
ノハ、斯ウ云フコトデアル、少シク長クナ
サマスカラ、一分間位デ讀上ダマスカラ、
我慢ヲシテ聽イテ戴キタイ、此留保財源ノ
五億八百万圓ノ中デ、三億七千四百万圓ダ
ケヲ海軍ノ補充計畫ニ取ツタノデアリマス、
殘リノ一億三千四百万圓ヲ、昭和六年度カ
ラ十一年度マデ減税ニ持テ行タノデアリ
マス、隨テ平年ニハ二千五百万圓ヅ、毎年
減税ヲスルコトニナリマス、海軍ノ補充計
畫ノ詳細ヲ申述、ベル自由ハナイノデアリマ
スガ、大體ヲ申シマスト、海軍ノ軍縮條約
ニ依リ與ヘラレタル權利ノ全部ヲ實行シ、
尙ホソレ以外ニモ「オブショヨン」ノアリマ
ルモノハ大部分實行シテ、ソレ以外ニ航空
隊ヲ擴張スルノデ、ソレニ依シテ三億七千
四百万圓ノ金ヲ使用スルノデアリマス、減
税ニ振向ケル一億三千四百万圓ガ少イト云
フコトノ非難ガアルノデアリマスガ、上ニ
敢テ國民諸君ニ申上ダタノデアリマス」
トスウ言ッテ居ル、自分ハ間違タ、是ハ間
違タトハ——貴方ハ斯ンナ事ハ言ハレマ
スマイ、苟モ大藏大臣トシテ、天下ノ耳目
ヲ引ク奉答文トナッテ「陛下ノ御左右ニ奉、
タ其奉答文、或ハ敷奏文トモ申シマスルカ、
政府カラ見マスレバ敷奏文、軍事參議官會
議カラ云ヘバ奉答文、其計畫ニ基イテ慎重
ニ審議ヲ爲サレタル所ノ此案件ニ對シテ、

云フヤウナコトヲ發表ナサラウトハ思ヘナ
致シテアル、ソレデ井上準之助トアリ、色
色ノコトヲ説明シテ「我國財政ノ現状」、「軍
縮剩餘金ノ性質」ト云々テ色々ノコトヲ説明
サレ、其次ニ「留保財源ノ使途」ト云フコト
ニナリマス、ソコデ此處ニ問題ニナリマス
ノハ、斯ウ云フコトデアル、少シク長クナ
サマスカラ、一分間位デ讀上ダマスカラ、
我慢ヲシテ聽イテ戴キタイ、此留保財源ノ
五億八百万圓ノ中デ、三億七千四百万圓ダ
ケヲ海軍ノ補充計畫ニ取ツタノデアリマス、
殘リノ一億三千四百万圓ヲ、昭和六年度カ
ラ十一年度マデ減税ニ持テ行タノデアリ
マス、隨テ平年ニハ二千五百万圓ヅ、毎年
減税ヲスルコトニナリマス、海軍ノ補充計
畫ノ詳細ヲ申述、ベル自由ハナイノデアリマ
スガ、大體ヲ申シマスト、海軍ノ軍縮條約
ニ依リ與ヘラレタル權利ノ全部ヲ實行シ、
尙ホソレ以外ニモ「オブショヨン」ノアリマ
ルモノハ大部分實行シテ、ソレ以外ニ航空
隊ヲ擴張スルノデ、ソレニ依シテ三億七千
四百万圓ノ金ヲ使用スルノデアリマス、減
税ニ振向ケル一億三千四百万圓ガ少イト云
フコトノ非難ガアルノデアリマスガ、上ニ
敢テ國民諸君ニ申上ダタノデアリマス」
トスウ言ッテ居ル、自分ハ間違タ、是ハ間
違タトハ——貴方ハ斯ンナ事ハ言ハレマ
スマイ、苟モ大藏大臣トシテ、天下ノ耳目
ヲ引ク奉答文トナッテ「陛下ノ御左右ニ奉、
タ其奉答文、或ハ敷奏文トモ申シマスルカ、
政府カラ見マスレバ敷奏文、軍事參議官會
議カラ云ヘバ奉答文、其計畫ニ基イテ慎重
ニ審議ヲ爲サレタル所ノ此案件ニ對シテ、

云フヤウナコトヲ發表ナサラウトハ思ヘナ
致シテアル、ソレデ井上準之助トアリ、色
色ノコトヲ説明シテ「我國財政ノ現状」、「軍
縮剩餘金ノ性質」ト云々テ色々ノコトヲ説明
サレ、其次ニ「留保財源ノ使途」ト云フコト
ニナリマス、ソコデ此處ニ問題ニナリマス
ノハ、斯ウ云フコトデアル、少シク長クナ
サマスカラ、一分間位デ讀上ダマスカラ、
我慢ヲシテ聽イテ戴キタイ、此留保財源ノ
五億八百万圓ノ中デ、三億七千四百万圓ダ
ケヲ海軍ノ補充計畫ニ取ツタノデアリマス、
殘リノ一億三千四百万圓ヲ、昭和六年度カ
ラ十一年度マデ減税ニ持テ行タノデアリ
マス、隨テ平年ニハ二千五百万圓ヅ、毎年
減税ヲスルコトニナリマス、海軍ノ補充計
畫ノ詳細ヲ申述、ベル自由ハナイノデアリマ
スガ、大體ヲ申シマスト、海軍ノ軍縮條約
ニ依リ與ヘラレタル權利ノ全部ヲ實行シ、
尙ホソレ以外ニモ「オブショヨン」ノアリマ
ルモノハ大部分實行シテ、ソレ以外ニ航空
隊ヲ擴張スルノデ、ソレニ依シテ三億七千
四百万圓ノ金ヲ使用スルノデアリマス、減
税ニ振向ケル一億三千四百万圓ガ少イト云
フコトノ非難ガアルノデアリマスガ、上ニ
敢テ國民諸君ニ申上ダタノデアリマス」
トスウ言ッテ居ル、自分ハ間違タ、是ハ間
違タトハ——貴方ハ斯ンナ事ハ言ハレマ
スマイ、苟モ大藏大臣トシテ、天下ノ耳目
ヲ引ク奉答文トナッテ「陛下ノ御左右ニ奉、
タ其奉答文、或ハ敷奏文トモ申シマスルカ、
政府カラ見マスレバ敷奏文、軍事參議官會
議カラ云ヘバ奉答文、其計畫ニ基イテ慎重
ニ審議ヲ爲サレタル所ノ此案件ニ對シテ、

行シタカ、第一補充計畫ニ、ソレガ舍マレ
テアルカト云フコトモ、吾々ハ考慮シナケ
レバナラヌ、若シアルトシテモ、微々タル
モノデアシテ、吾々ノ氣ノ付カナイ程度ノモ
ノデアル、將來は等ヲ建造スルコトニナル
ナラバ、昨日一寸木暮君モ之ニ觸レラレタ
問題ニアリマスカラ、私ハ多クハ言ヒマセ
ヌガ、少クトモ之ニ對シテ一億七八千万圓
ノ製艦費ガ要ルコトデアラウト思フノデア
リマス、サウ云フヤウナコトヲ茲ニ差措イ
テ、斯ノ如キコトヲ臆面モナク論文トシテ
天下ニ公表サレルト云フコトハ何事デアル
カト、吾々ハ論ジタクナルノデアリマス
其他ニ未ダ問題ニ上シテ居ラヌ條約上ノ
権利、頗數等ニ於キマシテ、非常ニ大キナ
ル數字ガアルト云フコトハ、私共明カナル
事實デアルト思ヒマス、即チ吾々ハ今日條
約ニ於テ認メラレタル代換ノ建造額ハ、全
部ニ於テ六万七千五百噸アリマス、輕巡洋
艦ニ於テ、驅逐艦ニ於テ、潛水艦ニ於テ、
尙ホ敷設艦ニ於テ、航空母艦ヲ取除イテ是
レダケノモノヲ合セマシテモ、六万七千五
百噸デアル、吾々ハ此第一補充計畫デ以テ
現ハレテ居ル所ノ數字ヲ差引キマシテモ、
尙ホ之ニ付テ二万八千三十噸ハ餘テ居ル、
是レダケト云フモノハ、吾々ハ權利ノ全部
ヲ拋棄シナイ限り、倫敦條約ニ依テ得タル
權利ノ全部ヲ行使スルト云フナラバ、此二
万八千三十噸ヲ吾々ハ是非トモ建造シナケ
レバナラヌ、之ヲ實行セズシテ、全部ヲ實
行シタト云フコトハ、大嘘ノ河童デアルト
謂ハナケレバナラヌ（拍手）

ノ部分マデガ竣工スルカ、或ハ六割ノ竣工
デ止メルカ、或ハ八割ノ竣工ニナルカト云
フコトデ、此所要金額ハ變テ參リマセウ
ガ、是ハ相當大キナ數字ガ現ハレテ來ナケ
レバナラヌノデアリマス、ソレニモ拘ラズ
今回ノ三億七千四百万圓ヲ以テ「海軍ノ軍
縮條約ニ依リ與ヘラレタル權利全部ヲ實行
シ、尙ホソレ以外ニモ「オブシヨン」ノアリ
マスモノハ大部分實行シ、ソレ以外ニ航空
隊ヲ擴張スル、ソレニ付テ三億七千四百萬
圓ノ金ヲ使用スルノデアリマス」ト斯ウ云
フヤウナ嘘八百ヲ並ベ立テ、減稅ニ向ケ
ク金額ノ少ナカツコトヲ瞞化シ去ラウト
云フコトハ、餘り白々シイ見エ透イタ社ノ
裡ナリト吾々ハ言フノデアリマス（拍手）ソ
レハ今ヲ時メク大藏大臣トシテ、金解禁ノ
善後處置ヲシナケレバナラヌ大ナル責任ガ
アルト、天下ニ呼號シテ居ル大藏大臣ノ仕
打トハ、洵ニ似テモ似付カヌ卑劣ナル御根
性デハナイカト吾々ハ考ヘサセラレルノデ
アリマス（拍手）

ル、工程表ノ概要ニ付テ
ノハ、製艦ノ工程表デアル、専門的ニハ線
表ト云フ、線表ト云フノハ、線ヲ書イタ表
デアルカラ線表ト云フ、「此工程表ノ概要ト、
今朝程海上ゲマシタル軍艦製造費ノ順單
價、ソレヲ割當テ、見ルト、豫算ノ上ノ各
年度ニ現ハレテ居ル費用ガ、大分違ヒガ
アルヤウニ思フガ、サウ思フカ思ヘヌカ、
斯ウ云フコトデアリマス、是ハ内田サンノ
仰セノ通リデアリマス、是ハ非常ナ違ガア
ルコトハ數字ノ上ニ明カデアリマス」、斯ウ
言々テ居リマス、豫算ノ上ノ數字ト、ソレカ
ラ實際海軍省ガ是カラ軍艦ヲ拵ヘルト云フ
豫定表ノ間ノ數字上ニ、大ナル食達ガアル
コトハ明瞭デアリマス、斯ウ海軍大臣ハ唱
ヘテ居ルノデアル、サウスルト海軍ノ製艦
費ニ關スル限リニ於テハ、豫算ト云フモノ
ハ何等確定的ノモノヂヤナイ、不確實ナモ
ノデアル、段々之ヲ突込ンデ行クト、民間
ニ註文スルト前金ハ拂ハヌデモ宜イ、今年
竣工シナイモノハ翌年度ニ廻シテ支拂ヲシ
テモ宜イカラ、金ハ豫算ニ取テナクテモ仕
事ダケハ出來ルト、海軍當局ハ委員會ニ於
テ述べラレタデハアリマセヌカ、豫算ガナ
クテ行政官ガ仕事ヲヤル、而モ之ヲ外部ノ
國民ト契約ヲナサルナド、云フコトハ、何
處カラソンナ理窟ガ出テ參リマセウ、政府
委員ノ一人デアル大藏省ノ川越政府委員
ハ、學理的ニハ認メル、繼續費ト云フモノ
ノ年度割ガ決シテ居テモ、繰上使用ト云フコ
トハ、學理ノ上カラ認メラレルト思フ、併
ナガラ學理ノ上デ認メテモ、實際ニコソナ
コトヲヤラレテハ、豫算ト云フモノガ減茶
減茶ニナルカラ、コソナコトハヤラセナイ
積リデアルト言テ居ル、吾々ハ學理ノ問題
ニ於テサヘ、是ハ怪シイモノナリト思フノ
デアリマス、年度割ガ豫算デヤント決シテ
居ル、本年海軍ガ何々艦何隻ヲ拂ヘルガ、
金ハ今年度ニナイカラ、三菱造船所アタリ
ニ金ヲ支拂ハズシテ註文シテ、サウシテオ

前ノ方ハ來年金ガ出來クラ拂フカラ、捨ヘテ
テユレナドト云フコトヲ契約ナサルト云フ
コトデハ、國政ハドウナリマスガ、海軍省
デアルカラ之ヲ見遁スト云フノデスカ、是
ガ世ノ中ニ知レテ其様ナ方法ニ依テ縣云
行タリ、農事試驗場デ行タリ、工業試驗場
所ナドデ、年度割ヲ減茶々々ニシテ仕事ヲ
ヤツテモ宜ト言タラ、國政紊亂、疑獄事
件ナドガ茲ニ端ヲ發スルデハアリマセヌカ
ト考ヘルノデアリマス、コンナ馬鹿ナコト
ヲヤツテ、サウシテ辻棲ヲ合セテ行カウ、太
藏大臣ニ建艦費ヲ値切ラレタカラ、別ノ方
法デヤラウナド、ソレハ潛航艇ノ乗組員
ナドナラヤレルカモ知レマセヌガ、大キナ
御身體ノ持主ノ海軍大臣ニハ、出來ナイ相
談デアラウト私ニハ思ハレルノデアリマス
(拍手)ソンナ馬鹿々々シイコトヲヤルトハ
何事デアルカ、ソレデアルカラ潛水艦ニ於
テ、六年度ニ三艘製艦ヲスルト云フ豫算ヲ
取テ置キナガラ、實際ノ所デハ四艘モ擁
ヘル、或ハ一艘ハ舊計畫ノ分デアル、斯ウ
云フヤウナコトヲ言フ、差引スルト二艘餘
計揃ヘルノデハナイカト吾々ガ質問スル
ト、到頭最後ニハ取消シマスト云フ、ヨ
トニナックタ、驅逐艦ニシテモ其通り、今
年度ニ於テ工程表ニハ是亦四艘アッタ
記憶シテ居ル、然ルニ豫算ニハ三艘シカ
ナイ、段々追詰メラレテ、其一艘ハ去年躉
工シタモノデアル、竣工シタケレドモ、
マダ十分デハナイノデアル、彈薬ヲ載セ
ルト云フヤウナ、造兵上ノ仕事ガマダ殘ニ云
居ル、ソレデアルカラ是ハ六年度ニ完成ス
ル中ニ入レテ、六年度デ之ヲ建造スルト云
フコトニナツテ居ルノグト云フニ至テハ、二
ニ軍艦旗ヲ華々シク立テ、第八駆逐艦隊
ニ編入サレテ居ルノグト云フニ至テハ、二
體海軍省ノ豫算ナドハ減茶苦茶デハナイカ
ト、吾々委員ノ間ニ大ナル疑惑ヲ生ジタノ
デアリマス、コンナ闇々シイ厚カマシイヨ

トヲヤマテ……（同ジコトヲ何遍言フノダ）
ト呼フ者アリ眞鍋君ナドハマダ御若イ、結婚サレテ間モナイ、アナタノヤウナ新進代議士ハ、コンナ大切ナコトハ能ク何遍モ恐れモ腑ニ落チルヤウニ聽イテ、十分ニ幹部ヲ激励シ、大臣ニ向ヒテモ大ニ激励サレ戒飭サレテ、サウシテ國家ヲ泰山ノ安キニ置キ、畏多イコトデアリマスケレドモ、御上ノ御軽念ヲ安ンジ奉ル方法ニ出デナケレバナラヌ、是ガ國民ニ徹底セザル限りハ——政府當局ニ徹底セザル限りリハ、何百万遍デモ私ハ此處デ述ベルコトヲ辭サナイモノデアリ、吾々ハ左様ナ決心ヲ持テ國政審議ニ當、テ居ルノデアス様ナ滅茶苦茶ナ豫算ヲ提出サレタガ、豫算總會ハ審議期間ガ決マテ居ルカラ、ソレデ吾々同僚ハ已ムナクリシモノガ、稅制委員會ニ於其缺點ヲ暴露サレ、其醜狀ガ明カニナルト云フニ至テハ、今ハ其審議ノ眞最中デアル、然ルニ豫算案ニ付キマシテ、吾々ノ言議ヲ盡シ得ザリシモノガ、政府當局竝ニ與黨諸君ニ懇ヘルノデアリマス、左様ナコトデアルカト謂ハナケレバナラス、是モ公明正大、綱紀ノ肅正ト云フ看板ニ對シテ恥シクナイカト云フコトヲ、政府當局竝ニ與黨諸君ニ懇ヘルノデアリマス、左様ナコトデアルミシテ、我國ノ將來ノ財政計畫ト云フモノガ、今年度ニ於テ減茶苦茶ニ相成、タコトヲ、吾々ハ看取スルノデアリマス、吾々ガ將來ノ財政計畫ニ信フ置ケナイト云フ所以ハ、前ニ舉ゲタル事實ニ於テモ明カデアル、將來ドウシテモ政府ガヤラナケレバナラナイ幾多ノ仕事ガ茲ニ殘テ居ルノデアル、ソレ等ノコトヲ吾吾ハ考慮ニ入レル時ニ、此海軍計畫ガ終ル最後ノ年度デアル昭和十一年度ニ於テ、繼續費以外ノ臨時費ト云フモノハ僅ニ五千万圓、五年度ニ於テ一億二千万圓以上ニアッタモノガ、六年後ノ昭和十一年度ニハ僅ニ其半額ニ充タナイ五千萬圓ニナル、ソレマデノ間八年々歳々是が遞減ヲ致シテ參ルノデアリマス、サウ云フコトヲ考フル時ニ於テ、延中止ト云フヤウナ事バカリハヤッテハドウシテ吾々ハ安心ラシテ居ラレルカ、此事ヲ考ヘル時ニ於テ、吾々ハ將來政府ニ於テハ相當ニ仕事ヲヤラナケレバナラヌ、縁アリマス、サウ云フコトヲ考フル時ニ於テ、延中止ト云フヤウナ事バカリハヤッテハラレナイ、ソレデハ國民ガ助カラナイ、國

ナ譯デアリマスカラ、ドウシテモヤンテ行カ
ナケレバナラヌ事業ガ澤山アル、昭和六年
度ニ於テ一億二千二百万圓アタモノガ、七
年度ニ於テハ八千九百万圓ニナリ、其次ノ
八年度ニ於テハ七千八百万圓、九年度以降
ニ於テハ七千万圓ト減リ、五千七百万圓ト
減リ、十一年度ニ於テハ是ガ五千万圓ニナッ
テシマフ、コンナ事ガ一面ニアリ、一方ニ
於テハ景氣ハ回復スルナドト云太平樂ヲ
列ベル、景氣ハ何時カ回復シヨウガ、此ニ
三年間ニ、殊ニ金解禁以來被タ創痍ト云
モノヲ、産業界カラ取去ルコトガ出來
スカ、其間ニハ負債ノ延滞ヲ来シ、其間ニ
出來タ所ノ負債ノ増加ヲドウシテ償却スル
カト云フ、此大事ナ問題ヲ吾々ガ考慮スル
時ニ於テ、一面ニ貿易尻ノ僅ナル回復トカ、
或ハ海外ノ株式ノ値段ガ幾分上タト云フ
ヤウナコトノ僅ナル材料デ以テ、ドウシテ
ソソナ樂觀ガ出来マセウカ、而シテ政府ハ
歳費ノ節減ヲ圖ルトカ、行政財政ノ整理ヲ
來年カラヤルトカ言フ、此事ニ付テハドウ
ダ、アノ事ニ付テハドウダ、殊ニ國民ガ今
日悉ク希望致シ居ル官吏ノ減俸ニ付テハ
ドウカト云フコトヲ、私ハ二日モ三日モ費
シテ之ヲ論ジタ時ニ、何等之ニ對シテ明快
ナ答辯ハ無イデハナイカ、而シテ此年度末或
ハ年末ニ、官吏ニ惠與的ニ與ヘル所ノ年末
賞與、或ハ年度末賞與ト云フモノヲ減シタ
カラ、官吏ノ待遇ハ悪クナタ、官吏ノ收入
ハ減ジタノデアルト言フガ、ソレナラバド
レダケノ數字ガ、是等ノ賞與金ノ減額ニ依
テ國政ノ上ニ影響ガアタカト云フコトヲ
知ル爲ニ、吾々ハ其數字ノ大要ヲ示セト云
フト、ソレハ計算ガ面倒ダ、イヤ何ダト云
テ中々出サナイ、到頭終ヒノ質問日ニナッ
テ、漸クソット私ニ手渡ラスルト云フニ至ラ
チハ何タルコトデアル、ソレモ昭和三年度
ト四年度ニ限ルモノデアルニ至テハ、是ハ
沙汰ノ限りデアル、而モソレヲ見ル時ニ於
テ、私ハドウ云フ感ジヲシタカト云フト、
四年度ニ於テ一般會計ノ二千何百万圓ト云
フ此賞與金ガ、僅カ一割位減テ居ルニ過
ギナイ、一面ニ煙草ノ專賣、或ハ鐵道運賃
收入、斯ウ云フヤウナモノヲ含ムニ居ル所
ノ特別會計ニ於テハ、減ルドコロデハナイ、

逆に四千万圓の中二百万圓ト云フモノヲ、吾々ノ考フル所ニ依リマスレバ、賞與金ノ如キモノハ減額ヲスマベキモノデハナイ、是ハ寧ロ増額スルトモ、決シテ減額ノ出來ナイ性質ノモノデアル、サウンシテ其官吏ニ對シテ相當スル賞與金ト云フモノハ、吾々民間ニ謂フ所ノ賞與金ト同ジ性質ノモノデアルカト云フコトヲ繰返シテ聞イタ所ガ、大臣ハ其通りデアル、是ハ精勵格勤ナ者ニ對シテ相當ナ惠與金ヲ與ヘテ、サウシテ勵マス意味モ含ンデ居ルト云フヤウコトヲ言ハレル、此整理緊縮ヲヤル時ト雖モ官吏ノ惠與金年末賞與金、若クハ年度末賞與金ヲ幾分タリトモ削ルト云フコトハ、其趣意ニ適ハナイ、寧ロ是ハ官吏モ相當ナ體面ヲ保タナケレバナラヌ、昔ノ腰辨トハ今日ハ違フ、生活ノ程度ガ高マニテ、威嚴ヲ拂ハナケレバナラナイカラシテ、年末ヤ年度末ニ於テハ、多少ノ借財ト云フモノモアラウ、サウ云フ時ニ困ラナイト云フヤウニ、此賞與金ナドヲ與レルノデアラウ、サウ云フコトヲ考へル時ニ於テ、寧ロ平常月々渡サレル所ノ此月給ト云フモノニ手ヲ加ヘテ、寧ロ賞與金ニハ手ヲ加ヘザルガ、是ガ行政整理ノ實ガ擧ルノデハナイカト云マシテカラ、約二十日間バカリ經シテ、漸クフコトヲ、私共ハ攻メ寄タノデアリマス、サウシテ此俸給ニ付テ、所謂人件費ニ付テ表ヲ求メタノデアリマスガ、私ガ請求致シテアリマシテモ、下級雇員等ノ給料ト云フモノハ、相當ニ減額サレテ居リマスケレドモ、上級ノ高等官以上ノ者、委任、勅任ニ對シテハ、少シモ減額ヲサレナイト云フコトデアリ、其表ヲ睨ンデ見マシテモ、其人員ニ於テモ、高等官以上ノ者ハ毫モ人員モ減ラヌ、寧ロ増シテ居ルノデアル、サウンシテ雇員、傭人以下ノ下級ノ給料ノミガ、減少ヲ示シテ居ルト云フヤウナ事實ヲ發見致シテ、政府ノ行政整理トハ、那邊ニ其目標ヲ定メテ居ルカト云フコトニ付テ、私ハ推測ニ苦シムノデアリマス、デアリマスカラ、私ハ寧ロ此場合高給ヲ貪ル所ノ勤任以上、或ハ高等官ノ相當ナ所以上ニハ大減額ヲ致

シテ、一面其消費ニ制限ヲ加ヘテ、最近ノ物價低落ニ依ツテ脅威ヲ受ケテ居ル産業、ソレカラ下級生活者、是等ニ對シテ緩和ヲ圖ルト云フコトハ當然ノコトデアラウ、今日物價ノ低落ヲ是レ以上防グト云フコトモ、官吏ノ消費力、官吏ノ購買力ニ依ツテ保タレテ居ルト云フコトナドヲ考ヘル意味ニ於ケル、官吏ノ此購買力ノ増大ト云フコトハ、我國生産界ニ、又我國下級ノ國民ノ生活ノ上ニドレダケ影響ヲ與ヘテ居ルカ、好影響ヲ與ヘテ居ルカ、或ハ生活必需品ノ低下ヲ妨ガテ居ル所ノ一ツノ原因ヲ爲スノデハナイカ、サウ云フヤウナル世間ニ幾多ノ疑問ガ起キテ居ルノデアルカラ、是等ノ事ヲ明カニシナケレバナラヌト吾々ハ思タガ故ニ、是等ノ問題ヲ繰返シタガ、遂ニ大藏大臣、其他ノ政府委員カラハ、何等徹底シタ答辯ヲ求メルコトガ出来ナカッタノデアリマス、是等ノ重大ナル問題ヲ吾々ハ考慮スル時ニ於テ、諸君が之ニ對シテドウ云フ觀測ヲ持タレルカ、私ハ今日此處ニ僅カノ時制案ト云フモノハ、曩ニ發表シタ所ノ唯一部分ノ此項目、即チ選舉前ニ發表シタル所ノ八大政綱ト云フモノハ、中ノ、第四番目ノトスル次第デアリマスルガ、要スルニ此稅レヲ今日漸ク何トカシテ之ニ辻棲ヲ合セル積リデ、總化的ニ砂糖消費稅ニ二十二萬圓、ソレカラ織物消費稅ニ於テ六十何萬圓ナドト云フヤウナ、斯ンナチッポケナ減稅ナドヲ致シテ何ニナルノデアルカ(拍手)ソレデアルカラ世ノ中ニ政綱ナドト稱シテ公表スル時分ニハ、餘リ嘘八百ヲ竝ベナ一方ガ宜カラウト思フ、ソレデ二百七十名ノ過半數ノ大多數サヘ獲得スレバ、何事デモ爲シ得ルナドト云フヤウナ、不用意ナル所ノ觀念カラ出發致シテ、國民負擔ノ輕減ト生活ノ安定期ニハ、餘リ嘘八百ヲ竝ベナ一方ガ宜カラウト思フ、ソレデ二百七十名ノ過半數ノ地方稅ノ整理輕減、「ロ」ニハ生活必需品ニ對スル消費稅ノ整理輕減、「ハ」ニハ義務教育費、育費國庫負擔金ノ増額、此義務教育費ハ、是ハ漸ク千方百圓ノ輕減ヲ昨年ノ特別議會ニ於テ之ヲ決行政シタガ、今日ソレガ地方ニ

於テ負擔ノ輕減ニ使用サレタカドウカト内務當局ニ追窮ヲ致シマスト云フト、其答辯ハシドロモドロデアル、吾々ガ表ヲ出シテ之ヲ説明シロト言ヘバ、其表ニハ増減ノ末ノミヲ書イテ、基礎數字ガナインデアルトヲ書イテナイデ、其結果ダケヲ三角ヲ付ケタリ、丸ヲ付ケタリシテヤフテ居ル、幾ラ聞テ、サウシテ今回ハ幾ラノ交付金ヲ増シテ、ソレガ爲ニ増減ハドウ出クト云フヤウナコトヲ書イテナイデ、其結果ダケヲ三角ヲ付ケタリ、丸ヲ付ケタリシテヤフテ居ル、幾ラ聞テモ何モ分ラナイ、殊ニ御膝元ノ東京府ニ於テハ、マダ是ハ負擔ノ輕減ニ充テ、居ナイ、目下督促中デアルナドト云フコトヲ言ハレ、議會ニ餘リヤカマシイモノダカラ、無暗ニ内務省カラ電話ガ掛チテ來テ困ルカラ、議會デハ少シ穩カニシテ貲ヒタイナドト云フヤウナ、吾々ニ願ガ東京府カラ出テシクカ、却テ逆ニ益、地方稅ニ付テハ窮迫來ルト云フヤウナ、馬鹿々々シイコトデ終始シテ居タノデアリマス(拍手)ソレデアリマスカラ、第一番ニ國稅、地方稅ノ整理輕減、地方稅ヲ何程整理シタカ、何程輕減シタカ、却テ逆ニ益、地方稅ニ付テハ窮迫ヲセシメテ居ルデハナイカ、一面ニ於テ、吾々ハ國民トシテハ、吾々ノ稅金ヲ成ベク少クシテ貯ハナケレバナラヌ、吾々カラ支出シテ國家へ納メル金ハ、成ベク少クシテ戴カナケレバナラヌガ、一面吾々ノ租稅デ以テ賄フシテ居ル所ノ市町村ノ財政、各道府縣ノ財政ト云フモノハ、ドウナッテ居ルカト云フコトモ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、負擔ノ公平ト云フコト、地方中央ノ財政ト云フモノガピツタリ合テ、初メテ真ノ負擔輕減ガ出來上ルノデ、一部ノ特權階級、大資本家階級ニ媚ビルガ如キ提案ヲ致シ、是等ノ目的ヲ達成シ得ラレルナドト云フコトハ、ドウシテソシナコトヲ考ヘラレル、斯ウ云フコトヲ吾々ガ考フル時ニ於テ、此減稅計畫ヲ含ム豫算ト云フモノハ、私共ハ曲リナリニモ六年度ハヤレルカモ知レヌガ、ソレハ色々ナ青銅譲求ヲヤリ、先程述ベタヤウナ、煙草ノ元賣捌人ニ對シテヤフタヤウナコトヲヤッタラ、何トカヤレルカモ知レヌ、併ナガラソシナコトデハ到底辻棲ヲ合セルコトハ出來スカラ、ヤハリ非莫債主義ガ失業救濟ノ名義デ破綻ヲシタト同ジヤウニ、是ハソシトヤハリ公債ノ資源ニ

候シテ辻棲ヲ合セルニ至ルデハナイカ、吾々ハ初カラ堂々ト豫算ニ掲ゲテ、サウシテ公ト云フテ天下ニ公表シ、議會ニ論議ヲスルノナラ宜イケヒドモ、法律ニ以テ公債ニ支辨シテモ宜シイ、又ハ借入金ニヤッテモ宜シト云フヤウナ法律ガアルノヲ幸ニ、公債ノ名ヲ避ケテソート借入金ニ賄ヲスルナドト云フコトハ、何事アルカト吾々ハ考ヘテ居ルノデアル、現ニ昭和四年六月末ニ比シテ昭和六年一月末ニ吾々ノ田中内閣カラ諸君ノ内閣ニ移變リノ時ト、ソレカラ其後ニ於ケル所ノ公債ト云フモノダケデモ、八千餘万圓ヲ增加致シテ居ル、借入金ニ於テモ二千九百餘万圓ヲ增加致シテ居ルノデアリマス、之ニ製鐵所事業費ノ借入金ニアルトカ、米穀法ノ借入金ニアルトカ、鐵道事業費ノ一時借入金ナドト云フモノヲ加ヘタナラバ、借入金丈ケノ増加ガ二億圓ヲ突破スルデアラウト思フ、斯ウ云フヤウナル公債ト政策ヲ持續シナガラ、公債ハ政友會ニヤッタノデアルト云フ、吾々ハ天災地變ニ因ル所ノ公債、戰爭ニ因ル所ノ公債、或ハ地震ニ因ル所ノ復舊復興ノ公債、其以外ハ殆ド産業公債ヲ增加セシメ、尙ホソレデ足ラズシテ、ニ達セシメタノハ政友會ニアルナド、言フテ、自分が天下ヲ取ツテ僅二年ノ間、非募債主義ヲ高唱シテ居ル中ニ、八十餘万圓ノ公債ヲ增加セシメ、尙ホソレデ足ラズシテ、他ノ一時借入金ヲ加ヘタナラバ二億ヲ突破スル、今日議會ノ問題ニナツテ居ル所ノ、一億五千万圓ノ大藏證券等ト思ヒ合セル時ニ於テ、此財政計畫ト云フモノハ、如何ナル程度ニ危険ニ瀕シテ居ルカト云フコトヲ考へ、一面ニ於テ特ニ國ノ財政、地方ノ財政ニ於テ、ドンナ窮迫ノ事柄ニアルカト云フコトヲ考ヘル時ニ於テ、農村竝ニ中小商工業者ノ疲弊困憊其極ニ達シ、毎月々々地方ニ於ケル所ノ銀行ノ休業、又商店ヲ致シテモ、休業狀態ニ持續ヲ以テ營業ヲヤッテ居ル所謂開店休業銀行ト云フモノヲ合セテ約二百ヲ超エ、後者ノ預金ト云フモノハ五億、竝ニ休業銀行ノ一億五千万圓ヲ合シタナラ

バ、約七億ニ近イ所ノ此預金ト云フモノガ、銀行ヨリ取入レラナイ、取返スコトノ出来ナイ、引出スコトノ出来ナイト云フ事情ニ在ル今日、殊ニ是ガ地方ニ本店ニ有スル銀行ニ多イト云フコトヲ考ヘルナラバ、如何ニ吾々ガ——國民ガ其業ニ在ル者ト無イ者トヲ問ハズ、農民デアルト、工商業者デアルトヲ問ハズ、ドレダケ苦ミノ渦中ニ呻吟シテ居カト云フコトヲ考ヘ、斯如キ苛斂誅求ヲ來シ、國民が其業ニ在ル者ト無イ者テヲ問ハズ、サウシテ遂ニ財界ヲ大混亂ノ裡ニ導カントスル危險ノアルヤウナ稅制案ハ、悉ク撤回ヲ致シテ、諸君ノ聲明シタル趣旨ニ合スル所ノ、今日ノ窮迫シタル經濟界ノ現狀ニ即スル所ノ稅制案、減稅案ヲ建直シテ、吾々ニ見エンコトヲ諸君ニ希望スル、總理大臣代理以下其他内閣諸公ニ向クテ此事ヲ勸告シテ、私ノ討論ヲ打切ラントスルモノニアリマス(拍手)。

○作田高太郎君(贊成) 討論終局ノ動議ヲ提出致シマス、即チ七案ノ撤回ノ動議ニ對スル討論ハ、此程度ヲ以テ終局セラレンコトヲ望ミマス。

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メシマス、仍テ撤回ノ動議ハ否決セラレマシタ、次ニ七案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮詢致シマス、七案ノ第二讀會ヲ開クニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(賛成者 起立)

○議長(藤澤幾之輔君) 多數デアリマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ(拍手)

○作田高太郎君(贊成) 直チニ七案ノ第二讀會ヲ開カレントヨリマス

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ七案ノ第二讀會ヲ開キマス